

CSR Report

リンテックグループCSRレポート2015

社是

至誠と創造

リンテックグループのCSRの根幹は、
社是「至誠と創造」にあります。
これは、私たちの“あるべき姿”です。

「至誠」とは、どうすれば役に立ち喜ばれるかを考え、
すべての仕事に真心を込めて取り組むことです。
「創造」とは、現状に満足せず、より高い付加価値を求めて
常に工夫と改善に取り組むことです。

あらゆるステークホルダーに誠実であること、
革新の気概を持って新たな挑戦を繰り返していくことが、
“ものづくり”の会社としての原点です。

“すべては「至誠」に始まり「創造」につながる”
私たちリンテックの変わらぬ姿勢であり、
持続的成長を支える原動力です。



INDEX

編集方針

リンテックグループでは、社是「至誠と創造」を根幹にさまざまなCSR活動を行っており、本レポートでは2014年度の活動を中心に報告しています。全ての方に分かりやすく伝えるため、事業概要や特集ページを増やし、「企業統治」「社会性報告」「環境報告」のページでは主な活動を抜粋してまとめました。

特集は「LINTEC WAY」と、「2025年のあるべきリンテック像」を紹介しています。特集1は「LINTEC WAY」について国内、海外からの声を集めました。特集2では2025年にリンテックとしてどうあるべきかを議論したワークショップについて紹介しています。

本レポートは、ステークホルダー*とリンテックグループ双方にとって、重要性の高い情報を選択し掲載しています。より詳細な情報はCSRサイトを御覧ください。

* ステークホルダー：組織体に対する利害関係者。具体的には、消費者(顧客)、従業員、株主、債権者、取引先、地域社会、行政機関など。

CSR情報を開示する主なメディア



CSRレポート(冊子/PDF版)

【冊子】リンテックグループのCSR活動を、分かりやすく掲載。

【PDF版】英語版を作成。その他、抜粋版を韓国語、中国語(繁体字)、中国語(簡体字)、マレーシア語、インドネシア語、タイ語にて作成。




CSRサイト

リンテックグループのCSR活動を、より幅広くより詳細に掲載。

【日本語版】
<http://www.lintec.co.jp/csr/>

【英語版】
<http://www.lintec-global.com/csr/>

 このアイコンがある項目は、関連情報をCSRサイトで掲載しています。該当の関連情報は、ページ下の注釈スペースに項目をまとめています。

参考としたガイドライン

ISO26000(社会的責任に関する手引)

GRI「サステナビリティ レポートガイドライン第4版」

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」

環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

対象期間

原則2014年4月1日～2015年3月31日を対象としていますが、具体的な取り組み事例の一部には2015年6月までの内容を含んでいます。

なお、海外グループ会社12社の環境パフォーマンスデータについては、2014年1月1日～2014年12月31日を対象期間としています。

連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、LINTEC(THAILAND)CO.,LTD.、LINTEC KOREA,INC.ほか27社の決算日は12月末日です。作成に当たっては、連結子会社29社の決算日と連結決算日との差異が3か月以内であるため、各社の事業年度の財務諸表を使用しており、連結決算日との間に生じた重要な取引については必要な調整を行っています。

報告内容の信頼性確保

★マークを表示したパフォーマンス指標は、SGSジャパン株式会社の第三者検証を受けています。

- 01 編集方針
- 02 リンテックグループの概要
- 06 トップメッセージ
- 08 マテリアリティ(重点課題)の特定
- 10 リンテックグループのCSR
- 12 **特集1**
それぞれの
「LINTEC WAY」への思い
- 16 **特集2**
2025年のあるべき
リンテック像を考える
- 18 CSR活動テーマと目標・実績

企業統治

- 20 至誠のために

社会性報告

- 22 お客様のために
- 23 お取引先との協働
- 24 従業員とともに
(人権・雇用・人材育成/安全防災)
- 28 地域社会とともに
(コミュニティ参画)

環境報告

- 29 環境マネジメント
- 30 地球温暖化防止への対応
- 32 廃棄物・
用水使用量の削減
- 33 環境負荷物質の削減
- 34 海外グループ12社の
環境保全活動
- 36 リンテックと環境の関わり
- 37 第三者意見

発行年月
前回発行年月 2014年8月
今回発行年月 2015年8月
次回発行予定 2016年8月

会社概要 (2015年3月31日現在)

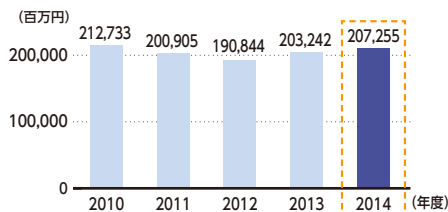
社名	リンテック株式会社 (英文: LINTEC Corporation)	事業内容	粘・接着製品(シール・ラベル用粘着紙・粘着フィルム、マーキングフィルム、ウインドーフィルム、半導体関連テープ、光学機能性フィルムなど)、特殊紙(カラー封筒用紙・色画用紙、特殊機能紙など)、加工材(剥離紙、剥離フィルム、合成皮革用工程紙、炭素繊維複合材料用工程紙など)、粘着関連機器(ラベル印刷機、ラベリングマシン、半導体関連装置など)の開発・製造・販売
本社所在地	〒173-0001 東京都板橋区本町23-23	売上高 (2014年度)	連結：2,073億円 単体：1,617億円
ホームページ	http://www.lintec.co.jp/	営業利益 (2014年度)	連結：169億円 単体：99億円
設立	1934年10月		
資本金	232億円		
上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部(証券コード:7966)		
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで		
代表者	代表取締役社長/社長執行役員 西尾 弘之		
従業員数	連結：4,413人 単体：2,524人		
事業所	営業拠点：東京、札幌、仙台、北陸(富山県)、静岡、名古屋、大阪、広島、四国(愛媛県)、福岡、熊本 生産拠点：吾妻(群馬県)、熊谷(埼玉県)、伊奈(埼玉県)、千葉(千葉県)、龍野、新宮(兵庫県)、小松島(徳島県)、三島、土居、新居浜(愛媛県) 研究開発拠点：研究所(埼玉県) 海外事務所：上海(中国)		

WEB 財務情報などの詳細は、当社IRサイトを御覧ください。
<http://www.lintec.co.jp/ir/>

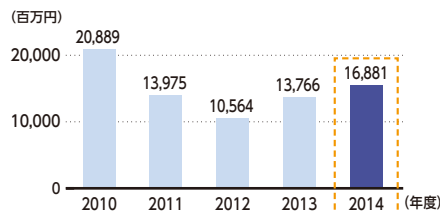


業績・財務ハイライト(連結) (連結子会社の事業年度等に関する事項はP1に記載)

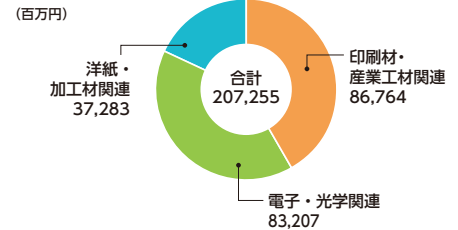
売上高



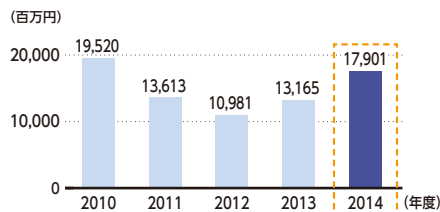
営業利益



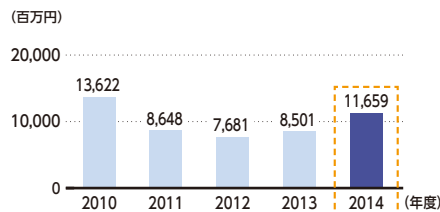
セグメント別売上高構成比(2014年度)



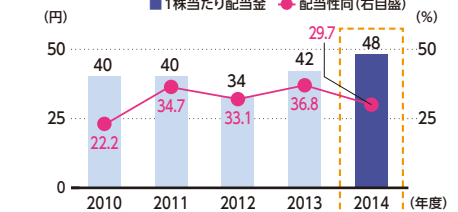
経常利益



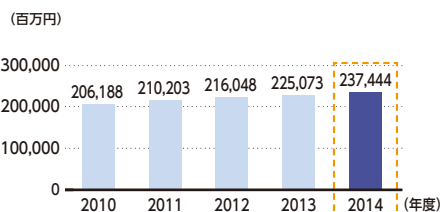
当期純利益



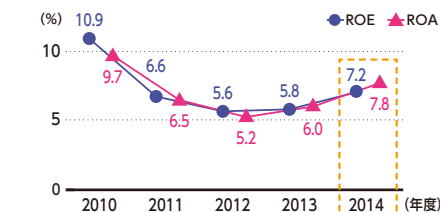
1株当たり配当金



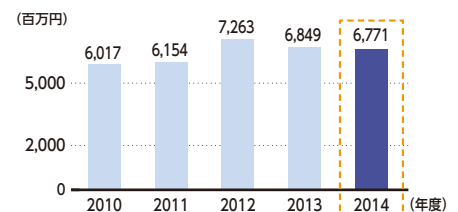
総資産



ROE / ROA



研究開発費





建物用
ウインドーフィルム

自動車用
ウインドーフィルム

マーキング
フィルム

シール・ラベル用
粘着紙・粘着フィルム

印刷材・産業工材関連

日用品や食品、家電製品などの表示用ラベルとして使用される粘着紙・粘着フィルム、またモバイル機器などの部材固定用テープや自動車用粘着製品、業務用バーコードプリンタ、ラベルを自動貼りするラベリングマシン、建物や自動車用のウインドーフィルム、屋外看板・広告用素材、車体装飾などに使用されるマーキングフィルム、店舗装飾などに寄与する内装化粧シートなど、用途や使用環境に応じ、さまざまな機能を付加した製品を提供しています。

売上高推移



暮らしのシーンで活躍するリンテック

リンテックグループは、幅広い分野で製品を生み出し、世界中のさまざまな地域で、人々の暮らしに貢献しています。

セグメント別情報



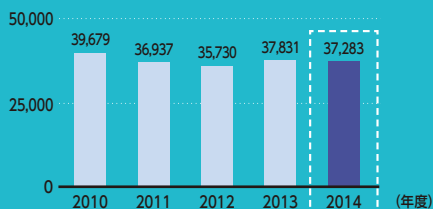
炭素繊維複合材料用
工程紙

特殊紙

洋紙・加工材関連

抄紙技術を生かし、豊富な色数が特徴のカラー封筒用紙や色画用紙、食品包装用の耐油紙や無塵紙、高級印刷用紙などの機能紙、また粘着剤面を保護する剝離紙や剝離フィルムのほか合成皮革や炭素繊維成形品製造時に使用される工程紙など、多彩で多様な製品を提供しています。

売上高推移 (百万円)



液晶ディスプレイ用
フィルム

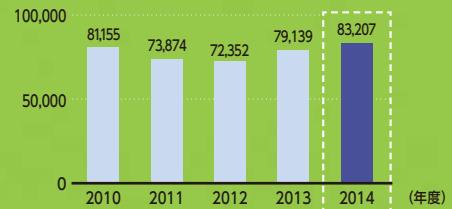
半導体関連
テープ・装置

積層セラミックコンデンサー製造用
コートフィルム

電子・光学関連

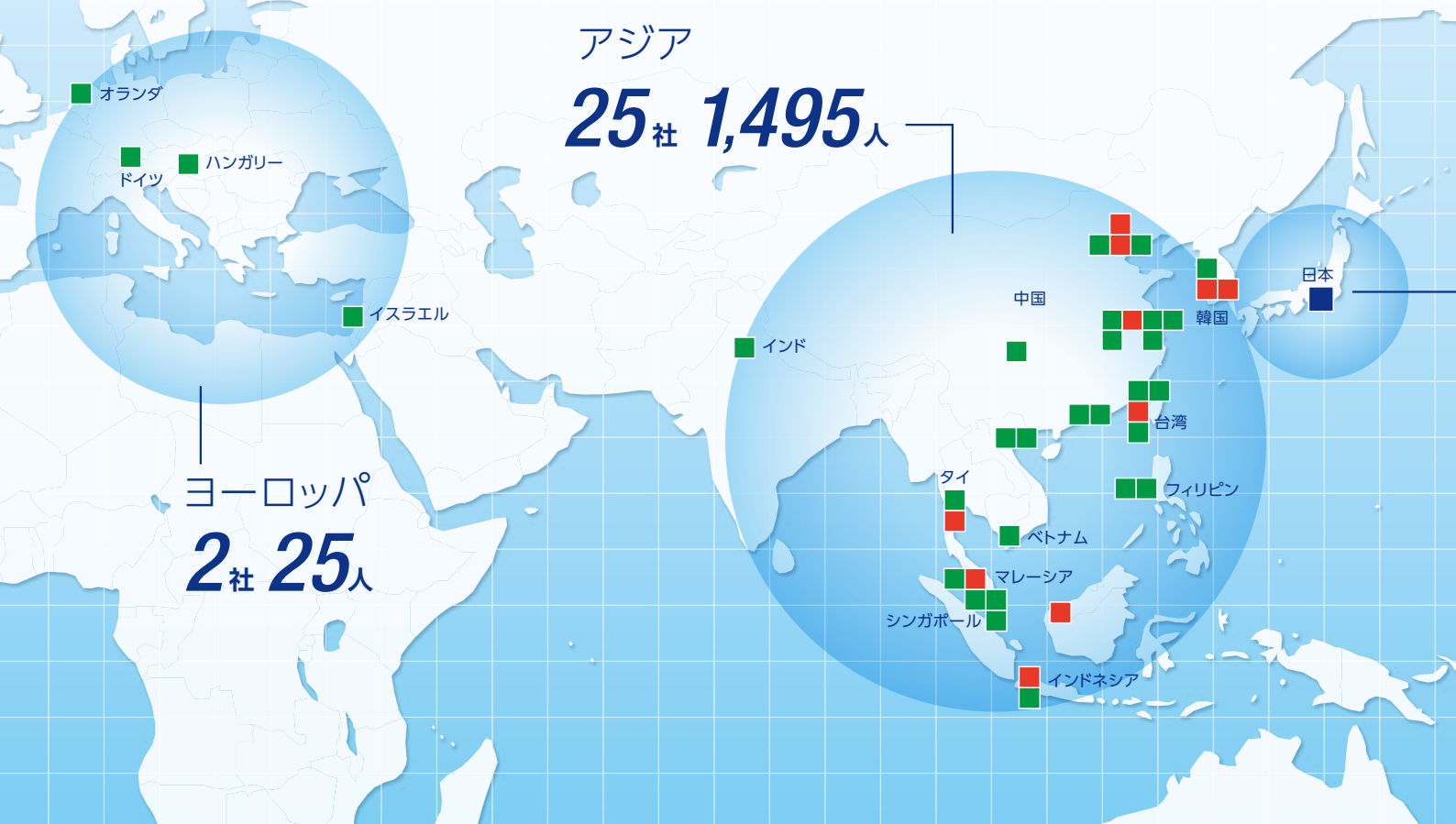
半導体チップの製造・実装工程で使用される特殊テープとその特性を生かす装置や積層セラミックコンデンサーの製造に不可欠なコートフィルム、また液晶ディスプレイ関連粘着製品、タッチパネル関連製品など、独自の研究・開発そして技術を駆使した製品を提供しています。

売上高推移 (百万円)



活躍を支えるグローバルネットワーク

リンテックグループ全従業員がステークホルダーの声に応え、より良い社会を実現するために、さまざまなCSR活動を行っています。



● グローバルトピックス

ASEAN地域統括会社の設立(2015年1月)

ASEANおよびインドでの包括的な事業戦略、そして事業強化・拡大を重要なテーマとし、以前から生産・販売拠点の拡充に取り組んできました。持続的な成長を遂げるため、2015年1月にASEAN地域統括会社としてリンテック・アジアパシフィック社(LAP社)*1を設立しました。現地に統括拠点を置くことで、経営判断のスピードアップを図り、生産体制の最適化や原材料調達効率化、同地域での市場シェアの拡大を目指しています。また、これまで各販売拠点が個別に行っていた財務・人事についても管理業務を集約することで、各拠点における営業や市場調査などの強化を図ります。



*1 LAP社: LINTEC ASIA PACIFIC REGIONAL HEADQUARTERS PRIVATE LIMITED

米国テキサス州に研究開発拠点を開設(2014年2月)

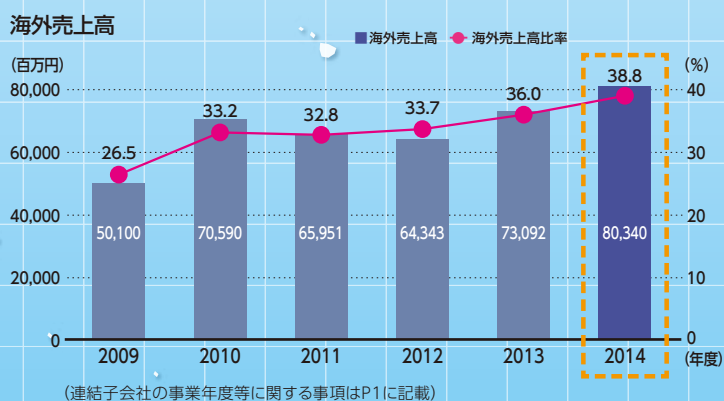
当社グループとテキサス大学ダラス校(米国テキサス州)が共同で、カーボンナノチューブ(筒状炭素分子)*2の特性を損なうことなく薄いシート状に加工する新規技術の開発を進めてきました。その実用化に向け、テキサス州ダラス近郊のリチャードソンにリンテック・オブ・アメリカ社の研究拠点となるナノサイエンス&テクノロジーセンター(NSTC)を設立し、量産技術の確立に着手しています。今後、NSTCと研究開発本部が連携し、最先端分野への展開を目指し、新たな市場開拓と製品開発を進めていきます。



*2 カーボンナノチューブ(筒状炭素分子):直径がナノメートルレベル、長さがマイクロメートルレベルの筒状の炭素材料。軽量ながら曲げや引っ張りに非常に強く、導電性、熱伝導性などにも優れている。

日本
9社 3,362人

アメリカ
3社 277人



- 生産子会社
 - 販売子会社、分公司、事務所
 - 研究開発拠点
 - については、P2 会社概要に記載
- 注)上記人数は非連結子会社を含んでいます。

対象範囲とその表記

本文中の報告対象範囲を以下のように整理し、表記しています。

また、報告対象外の拠点については本文中の末尾に記載することで、報告対象を明確にしています。

企業統治 社会性報告

「リンテック」：リンテック(株)

「リンテックグループ」：リンテック(株)および国内・海外グループ会社

環境報告

「リンテック」：リンテック(株)の本社、吾妻工場、熊谷工場、千葉工場、龍野工場、新宮事業所、小松島工場、三島工場、土居加工工場、新居浜加工所、伊奈テクノロジーセンター、研究所および東京リンテック加工(株)

「リンテックグループおよび海外グループ会社12社」：上記および海外グループ会社12社

注)海外グループ会社12社

琳得科(蘇州)科技有限公司、琳得科(天津)実業有限公司、普林特科(天津)標籤有限公司、リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(台湾)社、リンテック・アドバンス・テクノロジー(台湾)社、リンテック・コリア社、リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(韓国)社、リンテック・インドネシア社、リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社、リンテック・インダストリーズ(サラワク)社、リンテック・シンガポール社、マディコ社

「リンテックグループ」：リンテック(株)および国内・海外グループ会社

CSR活動の根幹にあるのは、
「至誠と創造」の精神です。

リンテックグループは、粘着素材分野におけるリーディングカンパニーとして、粘着応用技術や表面改質技術などの独自技術から生まれた多彩な製品を社会に提供しています。社は「至誠と創造」の下、誠実かつ独創的な“ものづくり”により着実な成長を続け、2015年3月期の通期連結業績においても、電子・光学関連事業の好調や円安効果も手伝って、前年比べて増収増益を確保することができました。

私たちにあって「至誠と創造」は、CSR活動においても取り組みの根幹にある精神だと考えています。法令遵守や公正な取引、誰もが働きやすい職場環境の整備など、事業活動の基本である「守り」のCSRは、全ての仕事に真心を込めて取り組む「至誠」の精神です。一方、社会的課題の改善・解決に寄与する製品づくりなどの「攻め」のCSRは、前例にとらわれず常に工夫と改善に取り組む「創造」の精神が原動力となっています。

さらなるCSR活動の進展を見据え、
「守り」と「攻め」の両面を強化しています。

リンテックグループは、2014年度からスタートした中期経営計画「LINTEC INNOVATION PLAN 2016 (LIP-2016)」において、「グローバル展開のさらなる推進」「次世代を担う革新的新製品の創出」「強靱な企業体質への変革」「戦略的M&Aの推進」「人財の育成」の五つを重点テーマとして掲げています。中でも「グローバル展開」は、「海外売上高比率40%以上」の実現を経営目標とする私たちにあって最重要課題と位置づけています。目標達成に向けた事業範囲の拡大に伴い、2014年度は

ガバナンス体制の整備に力を注ぎました。

リンテックグループでは、ASEAN地域およびインドなどでの事業強化・拡大に向けた生産・販売拠点の拡充を図っています。2015年1月、同地域における事業戦略の立案・実行、経営資源の効率的な活用と、ガバナンス強化などを担うことを目的にASEAN地域統括会社として、リンテック・アジアパシフィック社 (LAP社) *1をシンガポールに設立しました。

また、2015年5月施行の改正会社法により導入された「監査等委員会設置会社*2」に移行し、取締役会の監査・監督機能の強化と、コーポレート・ガバナンスのより一層の充実を図っていく体制を整えました。

しかし、体制面の整備だけでは不十分であり、従業員一人ひとりの意識向上がガバナンス強化には不可欠だと考えています。そこで、全ての従業員を対象にCSR意識の向上を図るため、CSR推進室が国内外の各拠点を訪問し、CSR勉強会を開催。社は「至誠と創造」から成るリンテックグループ従業員のあるべき姿を明文化した“LINTEC WAY”の意識定着に努めました。勉強会参加者のアンケートでは「参考になった」「勉強になった」「家族とも共有したい」など前向きなコメントを数多く目にし、個々のCSR意識が着実に向上していることが実感でき、非常にうれしく思っています。

こうした取り組みは、「至誠」の精神から成る「守り」のCSRを強化するものであり、今後さらにCSR活動を進展させていく上での基盤強化につながったと感じています。

一方、「創造」の精神から生まれる「攻め」のCSRの象徴的な取り組みが、「LIP-2016」の重点テーマの一つである「次世代を担う革新的新製品の創出」です。これは、リンテックグループが今後も事業活動を続け、社会に貢献していくために非常に重要なテーマです。実現には、将来を見据えて社会の変化に対応し

「至誠と創造」の精神で、
「守り」と「攻め」のCSR活動を推進し、
社会のため、人のために尽くしていきます。

ながら、ほかにはないリンテック独自の技術を確立していく研究開発の姿勢が必要だと私は考えており、何より重要なのが組織の連携です。

このテーマに関わる取り組みとして、2014年8月と9月にCSRワークショップを開催しました。組織横断的に各部門から参加者を募り、社会的課題の視点からリンテックグループの将来のあり方を考察した本ワークショップでは、理想のリンテック像に向けたビジョンが芽生えるとともに、部門を超えた交流も生まれています。社会的課題解決を目指した既存製品にとられない製品の創出に向けての一步であり、この取り組みを推進していきます。

中期経営計画「LIP-2016」(2014年4月1日～2017年3月31日)

基本方針

攻めの経営と間断なきイノベーションで成長軌道を取り戻す

重点テーマ

1. グローバル展開のさらなる推進
2. 次世代を担う革新的新製品の創出
3. 強靱な企業体質への変革
4. 戦略的M&Aの推進
5. 人材の育成

マテリアリティ(重点課題)を特定し、体制整備と指標づくりを行います。

2014年度は、リンテックグループが社会、環境に与えるポジティブ/ネガティブな影響を抽出し、社内外のステークホルダーの声を参考に議論を重ね、マテリアリティを特定しました。今後は、特定した項目ごとに主要取り組み指標(KPI)*³を設定し、目標達成のための体制整備を進めていく予定です。

マテリアリティを軸としたCSR活動のPDCAサイクルを回していきたいと考えています。

また、取り組みは始まったばかりですが、今後は、このマテリアリティを見直していく過程で、「守り」の面だけではなく、事業の成長や新製品の創出といった「攻め」のCSRにつなげていくことを期待しています。

“損得”ではなく“善悪”で、人や社会のために尽くしていきます。

先に述べたとおり、リンテックグループのCSR活動の根幹には、社是「至誠と創造」があり、私は常々、従業員に対して「人として胸を張れる行動をとってほしい」と話しています。従業員一人ひとりが、“損得”ではなく“善悪”を物事の判断基準とし、常にCSRの意識を持ちながら、世のため人のために全力を尽くしていくこと。これは国境や文化、宗教を越え、全従業員が共有しなければならない考えです。そして、私たちのCSR精神に国境はありません。リンテックグループが持続的成長を遂げる企業であり続けるために、今後も全従業員が一丸となり、「至誠と創造」から成るCSR活動を推進し、ステークホルダーの皆様の期待に応えてまいります。

本レポートは、社会の皆様そして全従業員にもリンテックグループのCSR活動をより良く理解いただくために、2014年度の成果をできるだけ分かりやすく体系的にまとめました。皆様の変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

*1 LAP社:→P4に記載。

*2 監査等委員会設置会社:→P20に記載。

*3 主要取り組み指標(KPI):→P8に記載。



リンテック株式会社
代表取締役社長 社長執行役員

西尾 弘之

マテリアリティ(重点課題)の特定★

リンテックグループは、CSR活動のさらなる推進とステークホルダーからの要請に応え、リンテックグループにとってのマテリアリティを特定しました。

● グループ全体の取り組みにおけるマテリアリティを特定しました。

リンテックグループが社会とともに持続的に発展するためには、社会と対話しその要請に応えることが重要だと考えています。GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン」第4版(G4)では、当社およびステークホルダーにとってマテリアルな(重要性の高い)情報を選択した上で開示することが、より一層求められるようになりました。こうしたグローバルでの潮流も背景に、2014年度は、ステークホルダーの皆様の見解を伺いながら、マテリアリティを特定しました。

特定したマテリアリティは長期的視点での活動へ展開していきます。さらに主要取り組み指標(KPI)*1の策定を進め、活動のPDCAサイクルを回していく予定です。また、社会の変化や活動の進捗状況など必要に応じて、特定したマテリアリティの見直しを図ります。

今後も、「社是」と「経営理念」の下、グループ一体となって特定したテーマに取り組んでいきます。

● マテリアリティ特定プロセス



まず、ISO26000やG4の46側面、CSR調査機関による調査項目などの枠組みから課題を整理。これにグループ従業員によるワークショップ(P16参照)、他社ベンチマークの結果、リンテックグループの事業バリューチェーンにおいて、社会、環境、ステークホルダーに影響を及ぼすテーマを考慮し、検討すべき「CSR関連課題」64項目を選定しました。



選定した項目に対して、項目ごとにこれまでの活動および今後の活動目標まで考慮し、社内での優先順位づけを行いました。また、CSR・サステナビリティに関する調査機関の質問項目を社外優先順位づけに利用するとともに、これまで当社の活動に関わっていただいた社外有識者の方々に、活動背景などをまとめた資料を基に、項目を評価していただきました。これら社内・社外二つの視点で評価・分析し、マテリアリティを特定しました。



特定したマテリアリティについて、影響の範囲(バウンダリー)や今後の対応・目標などの妥当性をSTEP2で評価いただいた有識者の方々に確認していただくとともに、CSRに関する最高意思決定者である社長による評価・承認を得ました。



CSRレポートにおいて、プロセスおよび特定したマテリアリティを開示。活動をレビューし、必要に応じた見直しを行っていきます。

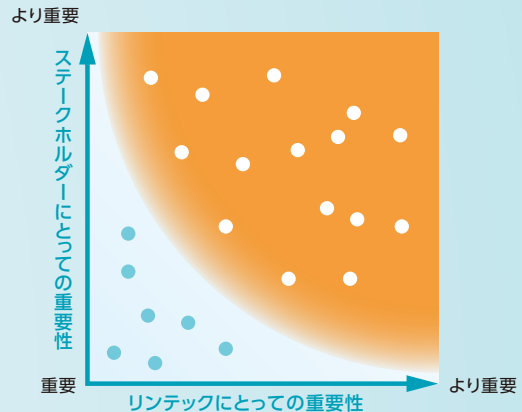
*1 主要取り組み指標(KPI): Key Performance Indicator。目的に対する達成具合を定量的に計るために設定された組織の戦略に関わる重要な指標。

★マークについては、P1に記載。

● マテリアリティマップ

STEP2において、社内・社外の二つの視点で特定したマテリアリティを「リンテックにとっての重要性」「ステークホルダーにとっての重要性」という軸でマッピングしました。

下記15項目については、主要取り組み指標(KPI)を策定し、経年で活動評価を行っていく予定です。また、下記に含まれない項目についても、リンテックグループのマテリアルな項目として従来どおり活動を続けていきます。



マテリアリティ		対象範囲(バウンダリー) ○は該当		選定背景
		社内	社外	
事業面 での貢献	発展途上国における地産地消の ビジネスモデルの構築	○	○	粘着製品の有用性を広め、発展途上国への有用な製品の提供、品質重視の姿勢でのグローバル展開を行う。現地での需要創出、現地調達を一層進め、ビジネスモデルの水平展開を図る必要がある。
	新規分野への進出	○	○	現状の技術力・開発力の強み・弱みを認識しつつ、グローバルな顧客ニーズ、社会課題に対応した新分野への進出を図る。ステークホルダーとの対話を通じて社会性(安全、品質、価格など)にも配慮する必要がある。
組織統治	グローバルガバナンスの運営	○	○	グローバルに事業を展開する上で、各国の法規制のレベルを超えた、高次の戦略的グローバル管理体制の構築と執行と監督の役割分担、方針の明示を進め、運用を図る必要がある。
環境	原材料の効率的な利用	○	○	石化原材料・パルプ・水を用いており、資源の枯渇は社会の持続可能性に影響を及ぼす。また、調達において安定的に入手できなくなる材料もあることから、使用量の減量・効率的な利用も求められる。
	大気への排出物の削減	○	○	温室効果ガス、オゾン層破壊物質、VOCなど、大気への排出物は、地球全体に影響を及ぼすものであり削減が求められている。総量での管理など、戦略的な取り組みが必要である。
	製品およびサービスを通じた 環境面での貢献	○	○	開発から製造、製品使用時や廃棄において、環境配慮への必要性が高まり、LCA*2管理は必要不可欠である。さまざまな業界に提供する製品面での配慮が重要となる。
	環境面での コンプライアンス対応	○	○	環境規制は地域によって対象物質や規制方法が異なる。今後は新興国や途上国における大気、水質、騒音、振動など公害につながる法規制対応のため、正確な制度の把握と対応が必要とされている。
労働慣行	労働安全衛生への対応	○	○	当社の労働安全衛生にとどまらない、主要な途上国のサプライヤーも含めた状況の把握・対応が求められる。また、メンタルヘルスへの対応も重要になっている。
	職場における ダイバーシティの実現	○	—	働きやすい職場づくりのためには、ダイバーシティ(ジェンダー、マイノリティ、LGBT*3など)への配慮が重要であり、経営的な競争優位の確保として多様性実現に向けた方針策定が必要となる。
	従業員満足度の向上	○	—	従業員は当社にとって重要なステークホルダー。企業の長期的成長は、従業員が誇りを持って働き、満足度が高いことが前提である。
社会	人権デューディリジェンス*4の実施	○	○	調達先はグローバルに広がっており、1次サプライヤーにおいて人権リスクを把握していくこと、SCM*5全体で人権が守られるように関係者への教育・監査体制の充実が重要になっている。
	社会面での コンプライアンスへの対応	○	○	社会面に関する法規制は、地域によって対象や規制方法が異なるため、正確な制度の把握が必要。各国の状況を集約しグローバルな管理体制を連携・整備していく必要がある。
	製品面での コンプライアンスへの対応	○	○	製品に関する規制は地域によって対象物質や規制方法が異なるため、正確な制度の把握が必要とされている。製品の安定供給、品質管理の徹底およびサービスの向上を推進することが不可欠である。
	持続可能な消費への貢献	○	○	幅広い商品の表示に関わる素材メーカーとして、消費者の適切な購入の選択を助けるため、さまざまな用途に適した表示用ラベルの実現、情報開示、消費者配慮製品の開発などが求められている。
	地域コミュニティとの共生を実現	○	○	グローバル展開を進める中で、地域コミュニティとの接点は増加する。企業は地域や社会に支えられており、その一部であることを認識し、社会との共生を図るためのさまざまな貢献活動を行う必要がある。

*2 LCA: → P18に記載。

*3 LGBT: レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシャル(両性愛者)、トランスジェンダー(性同一性障害など)の頭文字で、性的少数者の総称の一つ。

*4 人権デューディリジェンス: 組織が法を遵守するだけでなく、人権侵害の危険性を回避するためにそれに対処するプロセス(ISO26000 6.3.3人権に関する課題1)をいう。グローバルに対応が求められる「ビジネスと人権に関する指導原則」における「保護、尊重および救済」の枠組みを踏まえたもの。

*5 SCM: サプライチェーンマネジメント。材料の調達から生産・販売・物流を経て最終需要者に至る一連の流れを最適に整理・管理していくこと。

リンテックグループのCSR

リンテックグループのCSRの根幹は、社是「至誠と創造」にあります。
全ての従業員が社是の下、CSR活動に取り組んでいます。

● 本業を通じたCSRの実践

リンテックグループの事業は、多くのステークホルダーに支えられて成り立っています。ステークホルダーの期待に応え、信頼される企業であるために、社是「至誠と創造」を根幹に置き、社是を支える大切な価値観「LINTEC WAY」や「CSR基本姿勢」「行動規範ガイドライン」にのっとり、全従業員がCSR活動を積極的に推進しています。

また、2014年4月からスタートした中期経営計画「LINTEC INNOVATION PLAN 2016 (LIP-2016)」の実現のためには、グループ経営の強化が重要であり、グローバルでのCSR活動を継続的に進めています。リンテックグループでは、CSR活動の推進は経営に直結するものと考え、本業を通じたCSRを実践するため、2014年度はマテリアリティ(重点課題)を特定するなど、グループ全体で戦略的にCSR活動を行っています。

お客様からの期待に応え、信頼いただくために、製品の安定供給および品質管理とサービスの向上を図ります。

企業活動と地球環境の調和を目指し、環境負荷の低減に努めます。



● 私たちが歩むべき道「LINTEC WAY」

リンテックグループでは、全従業員が心を一つにし、同じ方向を目指すための道標として「LINTEC WAY」を策定しています。「LINTEC WAY」は、社是「至誠と創造」を支える大切な価値観として、10の心得から成り立っており、リンテックグループ従業員のあるべき姿として明文化されたものです。

2014年度は、「LINTEC WAY」の浸透を目的に、国内外のグループ会社でCSR勉強会を開催しました。

至誠を育む 5つの心得

- 1 誠実であり続ける
- 2 真心は通じる
- 3 喜びをつくろう
- 4 与える人になる
- 5 仲間と家族を大切に

創造を育む 5つの心得

- 1 成功するまで粘る
- 2 ユニークを誇ろう
- 3 変化をしなやかにとらえる
- 4 地球視点で考える
- 5 あらゆる可能性とつながる

● CSRの基本姿勢

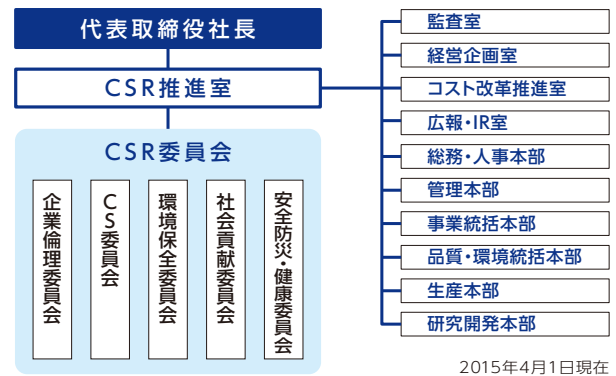
リンテックグループでは、社是「至誠と創造」の下、六つの基本姿勢に沿って取り組みを進めています。

企業倫理・コンプライアンスの徹底	安全防災・健康の確保
CS(お客様満足)の向上	社会貢献
環境への配慮	株主・投資家重視の経営

● CSR推進体制

リンテックグループでは、CSRの基本姿勢に沿ってCSR活動を推進しています。

CSR推進室は、社長直轄の組織とし、全社での高い倫理観の育成とCSRの浸透、およびCSR委員会の活動支援を行っています。委員会は組織横断的メンバーで構成され、各委員会に推進担当役員を配することで、経営の立場から責任を持って活動をリードしています。



● リンテックグループ行動規範

行動規範

企業活動の根幹は「コンプライアンス（法令遵守）」であり、リンテックグループの国内外における企業活動において「関連法規」ならびに「社会ルール」を遵守する。

私たちリンテックグループの役員・従業員等は、

- 常に、社会に貢献できる製品とサービスを提供します。
- すべての取引先との間で、自由な競争原理に基づく、公正・透明な取引を行います。
- すべての企業活動において、国内・外の法規を遵守するとともに、高い倫理感を持って自らを律します。
- 株主・投資家・取引先・地域社会・従業員等、当社の企業活動にかかわるすべての人々との関係を重んじます。
- 地球環境問題を重要な経営課題と位置づけ、環境への負荷の抑制・削減へ積極的に取り組みます。
- 良き企業市民として、積極的に社会貢献活動を行います。
- 政治・行政とは、公正で透明な関係を維持します。
- 反社会的勢力は排除します。
- 企業活動に伴い接待・贈答が必要な場合には、社会的常識の範囲内で節度を持って行います。
- 企業情報を適正に管理し、適時・適正に開示します。
- 知的財産権の管理に万全を期すとともに、他社の知的財産権を尊重し、これを侵害しません。
- 役員・従業員一人ひとりの人権と人格を尊重し、公正に処遇し、職場環境の維持に努めます。

2003年1月制定 2011年4月改定

● 「国連グローバル・コンパクト」への参加

リンテックグループは2011年4月から、「国連グローバル・コンパクト」に参加しています。下記10原則に基づいた事業活動を行い、社会の持続的発展に貢献していきます。

- 人権
 - 原則1: 人権擁護の支持と尊重
 - 原則2: 人権侵害への非加担
- 労働基準
 - 原則3: 組合結成と団体交渉権の実効化
 - 原則4: 強制労働の排除
 - 原則5: 児童労働の実効的な排除
 - 原則6: 雇用と職業の差別撤廃
- 環境
 - 原則7: 環境問題の予防的アプローチ
 - 原則8: 環境に対する責任のイニシアティブ
 - 原則9: 環境にやさしい技術の開発と普及
- 腐敗防止
 - 原則10: 強要・賄賂等の腐敗防止の取組み

● ISO26000

「ISO26000」はあらゆる組織における社会的責任に関する国際標準規格です。リンテックグループでは七つの中核主題を参考に、CSR活動を推進しています。

- 組織統治
- 公正な事業慣行
- 人権
- 消費者課題
- 労働慣行
- コミュニティへの参画及びコミュニティの開発
- 環境

● ステークホルダーとのコミュニケーション

社会からの期待に応えるためにリンテックグループは、ステークホルダーの方々と積極的な対話を図っています。

お客様	製品・サービスを改善し、信頼関係の構築とお客様満足の向上を目指します。	・国内外の展示会への出展 ・お問い合わせ窓口 など
お取引先	公正な取引と相互理解、法令遵守の徹底、信頼関係の構築を目指します。	・サプライヤーズデイ ・説明会 ・アンケート など
地域社会	地域の方々との相互理解と、地域社会への還元を目指します。	・工場見学 ・意見交換会 ・社会貢献活動 など
従業員	社是の下、やりがいを持って働ける職場になることを目指します。	・コミュニケーションマガジン発行 ・イントラネット など
株主・投資家	企業価値の向上と信頼関係の構築を目指します。	・株主総会 ・IRミーティング ・海外投資家訪問 ・株主通信[WAVE]の発行 ・ホームページ など

それぞれの「LINTEC WAY」への思い

2014年度は、各拠点でCSR勉強会を開催しました。一体感のあるCSR活動を支える社は「至誠と創造」から成る大切な価値観「LINTEC WAY」は、着実にグループ従業員に浸透してきています。それぞれが「LINTEC WAY」への思いを語りました。

至誠

誠実であり続ける

うそ偽りなく、正直にふるまい、真面目に真心を込めた行動が私の信条です。

代表取締役会長
大内 昭彦



全てが大切な心得です。あえて挙げるなら、この言葉を選びます。いつも、人として誠を尽くす心を忘れてはならないと思っています。

代表取締役社長
西尾 弘之



お客様から信頼されるためには、常に正直であるべきで、また常に全力で取り組むことを信条としています。

取締役常務
川村 悟平



事業の社会的責任(継続して発展・成長させること)を果たすため、誠実であることを真摯に考え続けることが大事と考えます。

取締役
服部 真



正直に誠実に暮らせば、やましさをない穏やかな心境をもつであろう。

琳得科(蘇州) 科技有限公司
劉艳华
(リュウ・イエン・ファ)



どんな、てらいもなく仕事をしていくことが不可欠です。

リンテック・アドバンス・テクノロジー(フィリピン)社
Rosana Alvarado
(ロザナ・アルバラド)



良い品性を育てるために非常に重要な方法の一つは、「誠実であり続ける」です。

リンテック・オブ・アメリカ社 シカゴ事務所
Neils Bray
(ネルズ・ブレイ)



誠実は、人々の心を開かせることを信じています。

リンテック・フィリピン(ベザ)社
Felix Malabanan
(フェリックス・マラバナン)



働きやすい環境をつくるために、誠実であることと家族を気にかけることが必要です。

リンテック・バンコク社
Punsub Leksomboon
(プンスブ・レクソブーン)



メーカーとしての責任と信頼関係を保つために必要なことと考えるからです。

福岡支店
川島 信子



日々の積み重ねが、品質向上につながるから。

熊谷工場
小野寺 菜々子



良好な関係と理解を従業員の間で構築できます。

リンテック・インダストリーズ(サラワク)社
Kevin Ingkie Barnabas Nassom
(ケビン・インギー・バルナス)



真面目に仕事に取り組むこと。

大阪リンテック加工株式会社
園田 英二



誠実さは、私たちにとって最も重要な姿勢だから。

リンテックサインシステム株式会社
藤原 彰人



私のモットーだからです!

本社(監査室)
山岡 美香



どんなことにも当てはまる大切なことだと思います。

静岡支店
戸崎 めぐみ



仕事は当然ですが、生きていく上で大事なこと。

新居浜加工所
羽藤 文隆



何ごとにも感謝の心を忘れずに臨みたいから。

千葉工場
高橋 龍二



至誠と創造

心得の中からはなく、社はそのものを選ばせてもらいました。私たち同様に先人たちが常に大切にしてきた言葉であり、私たちもしっかり引き継がなければなりません。

取締役副社長
川崎 茂



至誠

真心は通じる

単純明快に考え、
まっすぐに努力する
ことが私の基本です。

取締役副社長
浅井 仁



通常の人間関係や商売の上でも、
お互いの信頼がないと真心も生まれ
ない。CS(お客様満足)の基本、
信頼しあって真心を尽くせば互いに
幸せが訪れます。

取締役常務
中村 孝



真心を持って相手の
立場を考慮して話しを
すると、相手も真心で
返してくれます。

取締役
山本 敏夫



常に真心を込めた
対応を心掛けたいです。

仙台支店
三浦 友莉恵



常に真心と温かな
気持ちで勤務に
従事します。

リンテックインドネシア社
Sarni Pujiyanto
(サルニ・プジヤント)



全ての方に真心を
込めて接したいです。

リンテックコマース
株式会社
石川 綾香



お客様一人ひとりを
大切にしていきたい。

リンテックカスタマーサービス
株式会社
土屋 陽介



地域・人種は違っても、
人の真心は世界共通
だと実感しています。

リンテック・ヨーロッパ社
野口 洋平



創造

成功するまで粘る

製造現場を預かる立場と
して、ものづくりのプロセス
を楽しみ、細部までこだわり
抜く思い、探究心と情熱を
大切にしています。

取締役専務
小山 貢二



時代や市況の変化を
俊敏にとらえ、お客様の
期待に応えることが
最重要と考えています。

取締役常務
江部 和義



忍耐力は、高度な
技術分野において
特に重要です。

ナノサイエンス&
テクノロジーセンター
Derrick Tolly
(デリック・トリー)



テストから製品にするまで、
クレームのないものに
挑戦したら成功したと
思うから。

リンテック・タイランド社
Piyapong Thongsong
(ピヤポン・トングソング)



諦めず続けることが
一番の近道だと
思います。

リンテックサービス
株式会社
鈴木 智巾



誠実な仕事を捧げると
成功が来る！

リンテック・ハノイ・
ベトナム社
Le Nguyen
(レ・ニュエン)



より良い新製品のために
妥協したくないから。

研究所
仁藤 有紀



目標が成功したら、
より高みへと行けます。

リンテック・シンガポール社
Stanley Low
(スタンリー・ロー)



「粘る」こそ
リンテックだと思うから。

名古屋支店
末永 愛美



「やってみよう」を
現実には。

三島工場
礎 大貴



創造

ユニークを
誇ろう

お客様、関係会社や
サプライヤーと一緒に
行動をすることが
重要です。

リンテック・フィリピン
(ヘザ)社
Joanne Celis
(ジョアンヌ・セリス)



ユニークでなければ
新しい発想が
創造されないから。

小松島工場
今治 茂雄



固有の発想や
工夫は全員に
無限の在庫があります。

富士ライト株式会社
三間 康



創造

あらゆる可能性とつながる

至誠

喜びをつくろう

お客様に対して
良い聞き手になる
必要があります。

リンテック・ベトナム社
Nguyen Hoang Cuong
(ニュエン・ファン・クン)



仲間と楽しく働ける
会社をつくりたい。

リンテック・コリア社
Ma Haeri
(マ・ヘリ)



全ての人が組織に
とって最も貴重な
資産です。

リンテック・インド社
Ankit Gupta
(アンキット・グプタ)



人に感謝される仕事こそ
自分の喜びです。

プリンテック株式会社
清水 大輔



あなたの満足は
私たちの優先事項です！

リンテック・クアラルンプール社
Mok Yean Ni
(モック・イェン・ニ)



自分の仕事における信念で
ある「人に希望を与える、
人に自信を与える、人に喜びを
与える、人に利便を与える」
に近いからです。

リンテック・アドバンス・
テクノロジーズ(台湾)社
孫 麗婷
(スーン・リーティン)



人生の中で喜び=笑顔が
最も大切と思うので。

龍野工場
山田 貴司



小さな喜びが
次への原動力に
なります。

飯田橋オフィス
(東京加工材営業部)
今野 由梨



「ありがとう」を
多くの人々に発信したい。

吾妻工場
唐澤 英久



喜びがあると、
やりがいを感じます。

札幌支店
山岸 則幸



笑顔が見たいからです。

東京リンテック加工
株式会社
土田 沙織



お客様とのポジティブな
関係を築く方法は、
お客様のフィードバック
に耳を傾けることです。

リンテック・アドバンス・
テクノロジーズ(マレーシア)社
Tee Yih Long
(ティー・イー・ロン)



至誠

与える人になる

皆が「できる!」の精神で
与える人になろう。

マディコ社
Nattcha Milos
(ナッチャ・ミロス)



地域に価値のある会社の
一部であることに誇りを
持っています。

リンテック・オブ・アメリカ社
Krystal Adachi
(クリスタル・アダチ)



心にゆとりのある人に
なりたいです。

土居加工工場
桑岡 奈央



喜びや安心を与えられる
ようになりたいから。

北陸支店
長瀬 美穂



「利他*の心」で接し、
お役に立ちたいと
考えているからです。

伊奈テクノロジーセンター
野中 英明



人に与えることで
心が満たされます。

熊本事務所
的井 達也



創造

地球視点で考える

世界で成功するために、
グローバルに考える
必要があります。

リンテック・アドバンス・
テクノロジーズ(ヨーロッパ)社
Francis Zehentmeier
(フランシス・ゼヘントマイヤー)



* 利他: 「他人の喜び」をまず第一とする考え方。

創造

変化をしなやかにとらえる

時代の変化が速く激しい
現在、当社はそれに
応えられるポテンシャル
があると思います。

取締役
森川 秀二



変化を柔軟にとらえ、
ニーズに応えたい。

普林特科(天津)
標策有限公司
李 大为
(リー・ダウエイ)



「変化すること」を恐れずに
挑み続けます。

新宮事業所
怒木 秀介



お客様の新しい
プロセスと適格な品質に
対応するため。

リンテック・アドバンス
テクノロジーズ(上海)社
蔭 愷愷
(グワン・カイカイ)



変化が速い外部環境で
フレキシブルな対応に
より生き残り発展し続ける。

琳得科(天津)
実業有限公司
王 楠
(ワン・ナン)



常にアンテナを張り、
時代の波に乗り、
次の大きな発展を
考えよう。

リンテック・ハイテック
(台湾)社
陳 俊良
(チェン・チュンリヤン)



持続可能性を維持する
ことができるように、
変化に遅れないように
しなければなりません。

リンテック・アドバンス
テクノロジーズ(フィリピン)社
Ruby Ann Lavado
(ルビー・アン・ラバド)



至誠

仲間と家族を大切にする

会社の健全な発展の
基礎は、「誠実さ」と
「仲間と家族を大切に
する」社風であると
考えます。

取締役常務
望月 経利



「人の和」を大切にし、
強い信頼関係で
働きたいです。

リンテックスペシャルティ
フィルムズ(韓国)社
金 明珍
(キム・ミョンジン)



どれも欠くことが
できない、明日の
良い仕事をするための
「糧」だから。

リンテックスペシャルティ
フィルムズ(台湾)社
吉柳 秀二



「調和と信頼」を強調して
いるため、会社で働く
快適さと誇りを感じます。

リンテックインダストリーズ
(マレーシア)社
Rozlan Bin Osman
(ロズラン・ビン・オスマン)



仲間意識を持つことは
組織運営の原点です。

大阪支店
野尻 真由美



従業員間の結束が
重要なものだと
信じています。

リンテック・ジャカルタ社
Afifatul Khoir
(アフィアトゥル・コイル)



職場の仲間たちと
強い絆で結ばれて
います。

四国支店
平口 一樹



同僚やお取引先の
皆様を大切にし、
お互い楽しく働けるよう
心掛けています。

リンテック・アドバンス
テクノロジーズ(韓国)社
李 ハンナ
(イ・ハンナ)



家族・同僚・お取引先、
全ての人が大切な
仲間です。

広島支店
岡村 幸彦



2025年のあるべき リンテック像を考える

リンテックグループでは、全従業員が自ら考え、行動し、一体感を持って活動するCSRを目指しています。2014年8月と9月の2回にわたり従業員一人ひとりが、リンテックグループのCSRを理解し、社会から信頼され続ける企業であるために、「2025年のあるべき姿を考える」ワークショップを開催しました。



持続可能な企業であるために CSRを「自分ごと」にする

2014年度、リンテックグループでは経営のグローバル化が進展する中、マテリアリティの特定(P8参照)を行うなど、CSRにおいてもグローバルスタンダードに沿った活動へと舵を切りました。

活動のグローバル化に伴い、グループが一体感を持ち、さらにCSR活動を全体で推進するためには、従業員一人ひとりがどのように活動していくかを主体的に考えることが重要になってきます。

こうした状況を背景にリンテックは、2014年8月と9月の2回にわたり、CSRを自分ごととしてとらえるためのワークショップ「2025年のあるべき姿を考える」を開催しました。

外部講師に協力いただき、各回36名の従業員が参加し、2025年のあるべき姿について議論しました。

2025年のリンテック像に向けて 新たな気付きと今後の取り組み

当日は、さまざまな部署から参加した従業員たちが6チームに分かれ、3部構成のグループワークに取り組みました。

第1部と第2部では、「CSRとは何か」「ギャップを測る指標」について、講義を受けました。第3部の「CSRを自分ごと化する」では、バックカスティング手法*1を用い、2025年のあるべきリンテック像を考え、そのために今すべきことは何かを各チームで意見交換しました。各チームは、自分たちがすべきことを考え、アクションプラン策定のためのアイデアを出し合いました。グループワーク終了後は、各チームごとに発表と講評が行われ、全員でアイデアや考えを共有しました。2025年のあるべき姿として、「海外へのさらなる進出と新規事業の確立」「全員が同じ方向を理解し、ビジョンを持っている会社」など、各チームからさまざまな意見が挙がりました。

*1 バックカスティング手法: 未来を考える上で、目標となるような状態・状況を想定し、その想定から現在に立ち返って、今何をすべきかを考える手法。

【第1部】 未来志向を育てる

講義1 CSRとは何か

講義2 持続可能な社会とは何か

グループワーク

2025年の「あるべき社会像」を描いてみる



さまざまな部署から参加

【第2部】 ギャップを測る指標づくり

講義 ギャップを測る指標とは

グループワーク

「持続可能性指標」を作成してみる



講師によるアドバイス

【第3部】 CSRを自分ごと化する

グループワーク

- 1) 2025年のあるべきリンテック像を考える
- 2) 2014年と2025年のリンテックのギャップを測る指標を作成してみる
- 3) 「アクションプラン」を策定する



各チームでまとめを発表

参加者の声

- 個人の目標として10年後をイメージしたことはあるが、会社として考えたことがなかったので良い経験になった。
- あるべき未来を想像して今を考える手法は、今まで経験がなく、大変参考になった。
- このような会に参加したのは初めてだが、CSRについて改めて深く感じることができた。
- 他人ごとではなく、自分ごととして受けとめ、一歩踏み込んで考えることが重要だと知る機会となった。
- CSRは心構えではなく実践するものであることが理解できた。
- 「あるべき姿」を意識し、日々邁進すべきと改めて認識した。

参加した従業員からは「これからの自分の行動について考えさせられた」「皆が持続可能な社会へ向かう共通認識を持てるかが、大きな課題だと感じた」といった声が聞かれました。また、協力いただいた外部講師からは「限られた時間の中で、リンテックグループはどうあるべきかという真摯な思いが寄せられました。こうした部署横断的な対話を続けることで、攻めのCSRにつながる新たな取り組みにつなげていってほしい」とコメントを頂きました。

さまざまな立場の従業員が、年齢、部門を越えてリンテックグループのCSRや2025年のあるべき姿を考え、共有する貴重な機会となりました。

今回のワークショップを足がかりに、一人ひとりが自ら考え、行動し、一体感を持って活動するCSRを基本に、事業を通じた攻めのCSRを実現するため、今後はさらに具体的な取り組みにつなげるワークショップを計画していきます。

参加者のコメント

CSR活動は企業レベルの活動、慈善事業といったイメージが強かったです。しかし、ワークショップを通じて、身近な目標の積み重ねが大切であり、それが持続的成長につながると感じました。「LINTEC WAY」を歩むのは自分です。一社会人としては至誠を意識し、一研究員とし

ては創造を目指し、喜びを与えることから生まれる攻めのCSRを目標にします。CSRに対する印象が大きく変わる良い機会になりました。

研究所 製品研究部 粘着材料研究室 主任
富能 忠寛



CSR活動テーマと目標・実績

リンテックと社会がともに持続的に発展するためには、法令遵守はもとより、社会からの要請に応えるさまざまな取り組みが必要です。

CSRの基本姿勢に合わせ組織横断的なメンバーで構成された委員会が、CSR活動を推進しています。

2014年度 CSR活動テーマと目標・実績

	基本理念	活動テーマ	2014年度の目標
企業倫理	「企業倫理・法令遵守」を重要な経営課題と位置づけ、従業員一人ひとりへの意識の浸透と日々の実践を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●従業員一人ひとりが自覚を持った良き市民として行動する ●コンプライアンスの徹底を図り、社会から信頼される会社を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ●双方向(参加型)による倫理観の浸透 ●各種管理規程の最適化と周知徹底(情報セキュリティ・個人情報・営業機密など) ●提案型活動の推進による倫理観の拡大・深耕
CS(お客様満足)	お客様からの信頼確保と責任を果たすことを基本に置いた、製品の安定供給および品質とサービスの向上を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●生み出す(開発) ●創る(品質・製造) ●売る(コミュニケーション・業務) 	<ul style="list-style-type: none"> ●デザインレビューの展開促進 ●安くて良いものを生み出す ●環境関連活動の見える化 ●グローバルな基準でのものづくり ●自信を持ったものづくり ●技術の伝承 ●市場、業界トレンドの把握 ●部門間の情報交換促進 ●人材育成 ●企業文化の浸透
安全防災・健康	従業員満足度の向上を基本に置いた、安心して働ける職場環境の整備を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●BCMS対応(対応手順書の見直しフォロー) ●職場の身近な安全/健康促進体制の確立 ●社員のメンタルケア ●海外駐在員および出張者の安全確保対策(病気・災害・騒乱など) ●国内の病気予防対策 ●長時間労働対策・年次有給休暇取得促進 ●安全な自転車通勤体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ●災害対応手順書をより実践に即し、有効かつ効果的な手順書の改定 ●労働安全マネジメントシステムの維持管理 ●メンタルヘルスサポート体制の充実 ●社員の健康促進 ●EM*1委員会との安全情報共有、安全確保 ●連絡手段の確立 ●社員のインフルエンザ感染の減少 ●長時間労働者の減少 ●長時間労働者の有効な対策の確立 ●年次有給休暇取得促進対策の確立 ●自転車通勤者の安全確保(登録制/保険加入の義務および規定の制定)
社会貢献	地域・国際社会における良き企業市民として、社会的課題の解決に寄与し、それら社会の持続的発展に貢献する身の丈に合った活動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●継続可能な活動 ●地域密着型の活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会との交流 ●活動の充実と定着化 ●従業員の活動参加意識の向上と支援
IR*2	株主・投資家重視の経営推進コーポレートブランドの向上	<ul style="list-style-type: none"> ●株式市場での評価を高め(適正な株価形成)、企業・株主価値の向上を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ●新中期経営計画の訴求 ●投資家・証券アナリストの新規開拓・関係強化 ●株主との関係強化と個人投資家の新規開拓 ●情報発信とコミュニケーションの強化
環境保全委員会	素材メーカーとしての「環境負荷の低減」・「資源の有効利用」を基本に置いた、研究・開発および生産などの全社的活動を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ●法令遵守の徹底 ●環境関連広報・教育の充実 ●生物多様性の保全 ●新設計の環境配慮製品の開発 ●CO₂排出量の削減 ●エネルギー使用量の削減 ●廃棄物発生量の削減 ●化学物質の管理徹底 ●大気排出VOC量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●法令遵守の徹底 ●エコニュースを20件配信 ●各サイトにて活動計画を立案 ●当社のLCA*3基準に準じた開発件数12件/年 ●目標数値205,000t/年以下 ●エネルギー原単位3%改善(2013年度比) ●廃棄物発生量29,000t/年以下 ●チェックシートによるサプライヤー自主監査50件/年 ●目標数値910t/年

*1 EM: Emergency Managementの略称。海外に駐在および出張する従業員の安全を図るための組織。

*2 IR: Investor Relations(投資家向け広報)の略称。企業が株主や投資家に向けて、経営や財務、業績などの企業情報を提供する活動。IR委員会は2014年度で発展的に解消。

*3 LCA: Life Cycle Assessmentの略称。製品のライフサイクル全体を通じて使われるエネルギーや水、原材料の量や排出されるCO₂、有害化学物質などを算出し、環境への影響を総合的に評価する手法。

リンテックグループの全従業員が自ら考え行動するCSR（企業の社会的責任）を目指しています。CSRの根幹は社是「至誠と創造」です。2014年度はCSRを自分ごと化するために、社是から成るあるべき姿を表わした「LINTEC WAY」のCSR勉強会とCSRワークショップを実施しました。CSRへの

取り組みはPSR（個人の社会的責任）にも反映され、個人としての成長を実感する機会にも結びつくと考えています。当社グループが持続的成長を遂げるために、企業と個人が一体感を持って成長を実感することができるCSR活動を推進していきます。

CSR推進室 室長 真木 亨

◎大幅達成 ○達成 △未達成

達成状況	2014年度の主な活動実績	2014年度 活動報告
○	<ul style="list-style-type: none"> ●「りんりかわら版」の継続と、小冊子の発行 ●e-ラーニング「女性活躍促進」などの実施 ●情報セキュリティー自己監査の実施 ●「セクシャルハラスメント防止規定」、「飲酒運転に対する処罰」の改定案を作成 	企業統治 至誠のために P20-21 組織統治 / 公正な事業慣行 ※
○	<ul style="list-style-type: none"> ●e-ラーニング「デザインレビュー」の実施 ●各生産拠点固有の製造技術の情報共有を開始 ●入社10年目・係長クラスを対象にした財務／会計関連説明会を計画 ●新入社員研修で「CS」と「社是」の説明会実施 	社会性報告 お客様のために / お取引先との協働 P22-23 人権 / 消費者課題 / 公正な事業慣行 ※
○	<ul style="list-style-type: none"> ●災害対応手順書の読み合わせと部分的演習の実施 ●労働安全衛生マネジメントシステムの継続的運用 ●「心の健康診断」の実施 ●健康促進手当による啓発活動の実施 ●「海外危機管理対応マニュアル」の活用と対応演習の実施 ●自動車安全運転講習会の実施 	従業員とともに P24-27 人権 / 労働慣行 ※
○	<ul style="list-style-type: none"> ●地域清掃活動の実施(延べ2,813人参加) ●東日本大震災の被災者への義援金寄付 ●地域祭事への支援 ●6事業所で合計685人の工場・施設見学の受け入れ ●板橋地区暴力団追放連絡会・キャンペーンに2人参加 ●献血に延べ581人参加 ●障がい者支援活動 	地域社会とともに P28 コミュニティへの参画及びコミュニティの開発 ※
○	<ul style="list-style-type: none"> ●国内の機関投資家・アナリストとのIRミーティングや取材対応の実施(年間約150件以上) ●継続的な海外機関投資家訪問の実施(欧州1回、北米1回、計24社とのIRミーティング実施) ●国内で開催される海外投資家向けイベントへの参加(3回、計13社とのIRミーティング実施) ●株主通信誌、IRサイトなどによる情報提供の充実 	ステークホルダーとのコミュニケーション P11 組織統治 / コミュニティへの参画及びコミュニティの開発 ※
◎	●各サイトの環境法令相互内部監査実施	環境報告 P29-36 環境 ※
○	●22件配信で目標達成	
○	●地域活動への参加など各サイトで活動実施	
○	●開発件数23件／年で目標達成	
○	●202,000t／年で目標達成	
○	●2013年度比4.6%で目標達成	
△	●29,110t／年で未達	
○	●50件／年の監査実施で目標達成	
○	●903t／年で目標達成	

※ ISO26000の7つの中核主題を示しています。この手引を参考に、リンテックのCSR活動を報告しています。

至誠のために

リンテックグループの社は「至誠と創造」が示すように、「法令遵守」と「企業倫理」は経営の最重要テーマです。また、CSRの基盤と位置づけ、経営体制の強化に努めます。

● コーポレート・ガバナンス

リンテックグループは、法令遵守を徹底し、経営の透明性と企業倫理の意識を高め、迅速な意思決定と効率的な業務執行を行っていくことが、コーポレート・ガバナンスの基本だと考えています。その充実・強化を通じて、リンテックグループの企業価値のさらなる向上を目指します。

コーポレート・ガバナンス体制

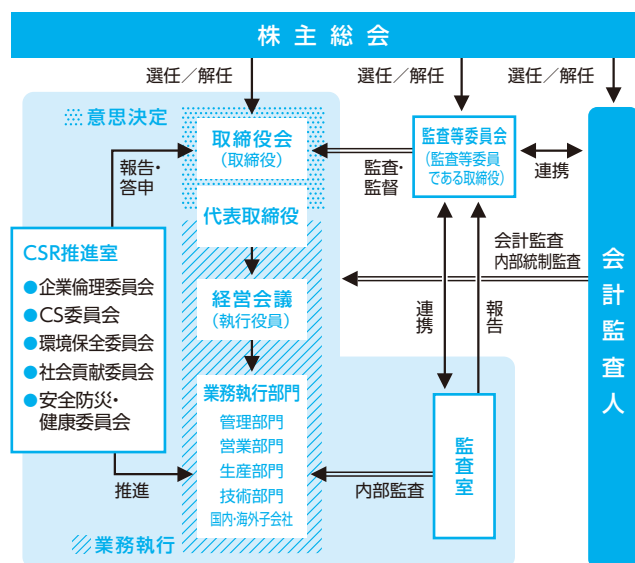
リンテックでは、取締役の任期を1年とすることで、その責任を明確にしているほか、執行役員制度を導入し、意思決定と業務執行を分離して取締役会の活性化と意思決定の迅速化を通して経営の効率化を図ってきました。

また、2015年6月24日開催の定時株主総会において、取締役会の監督機能を強化するための施策として、監査等委員会設置会社*1に移行しました。

監査等委員会は社内1人、社外3人の取締役監査等委員から構成され、新役員体制において社外取締役は4人となりました。

これにより、コーポレート・ガバナンスのより一層の充実と経営のさらなる効率化を目指しています。

コーポレート・ガバナンス体制



● コンプライアンス

リンテックグループでは社は「至誠と創造」に基づき、従業員一人ひとりが自らを厳しく律するよう努めています。2015年2月には、役員と管理職を対象にコンプライアンスアンケート調査を実施しました(回答率:2015年79.1%、2014年85.7%、2013年89.3%、2012年68.6%)。★

また、イントラネット上に「コンプライアンスに関する自己チェックシート」と「コンプライアンス研修資料」を掲出しており、これらの資料を活用し、自らの行動の確認や所属組織でのコンプライアンス教育を実施しています。



コンプライアンス教育

人権・労働に関するグローバル調査

リンテックグループでは2015年2～3月に、全グループ会社を対象とした、人権および労働に関する実態調査を行いました。★

法対応や差別の撤廃、人権尊重、児童労働の禁止、強制労働の禁止、賃金、労働時間、従業員との対話・協議、安全・健康な労働環境、人材育成の調査により、各国・各地域での法令遵守はもちろん、リンテックグループの行動規範が理解され、基本的な人権が尊重された安全で健康な労働環境が確保されていることを確認しました。今後も年1回定期的に調査を行い、実態把握とその改善に活用していきます。

独占禁止法の遵守/汚職、贈収賄の防止

リンテックグループでは、2013年に新たに「独占禁止法遵守マニュアル」を作成・配付し、講習会を4回実施したほか、リーガルニュース「独占禁止法」の発行、独占禁止法に関するe-ラーニングの実施などを通じて従業員への啓発活動を行っています。

また、2014年4月に配付した行動規範ガイドラインにも「独占禁止法に関するガイドライン」を記載しています。WEB

*1 監査等委員会設置会社: 監査等委員として選任された取締役3人以上(過半数は社外取締役)で構成する監査等委員会が取締役の業務執行を監査・監督する株式会社。
*2 BCMS: Business Continuity Management System(事業継続マネジメントシステム)の略称。企業の重要な製品またはサービスに重大な影響を与えるインシデント(→P23に記載)発生の際に「事業を継続」するため、組織の現状を理解して事業継続計画を

策定し、演習により計画の実効性評価を行い、システムを運用するマネジメント手法。
*3 BCP: Business Continuity Plan(事業継続計画)の略称。企業が事故や災害などの緊急事態に遭遇した場合、損害を最小限にとどめつつ、事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために事前に策定された行動計画。

行動規範ガイドラインによる意識啓発

リンテックグループでは、従業員の行動規範を記載する小冊子「行動規範ガイドライン」を発行し、一人ひとりの意識啓発に努めています。

2014年4月には内容を見直した行動規範ガイドラインを発行し、これを活用して国内外でCSR勉強会を開催しました。国内外で延べ98回開催し、延べ3,210人が参加しました。



CSR勉強会参加者(国内外) 延べ

3,210人

りんりかわら版による倫理観の醸成

リンテックでは2006年より、行動規範の遵守および倫理観の醸成を目的に、誰でも分かりやすい川柳に解説をつけた「りんりかわら版」をイントラネットに掲載しています。2015年4月1日には通算で200句に達しました。

また、これらの川柳をまとめた小冊子「りんりかわら版 守ってマスク!?!」を年1回発行しており、2015年3月にVol.8を発行。行動規範の遵守および倫理観の醸成に役立てるとともに、お客様やお取引先にも紹介しています。



● リスク管理

リンテックグループでは、グループ全社を対象に会社経営に関わるあらゆるリスクを洗い出し、緊急度や重要度に応じて改善に取り組むなど、問題発生防止に努めています。

四半期に1回のリスク洗い出しにより、社内状況の把握を行い、リスク管理能力の向上に努めています。

全社BCMS²の構築について

リンテックと東京リンテック加工(株)では、地震をはじめとするさまざまな災害発生時に、製品の供給を継続し早期に事業を再開できるよう、BCP³の策定に取り組んでいます。2014年3月11日にはBCMSの国際標準規格である「ISO 22301:2012」^{*4}の認証を取得しました。

全ての従業員にBCMSを浸透させるために、BCMS勉強会の開催や、各拠点での演習実施の活性化と充実を図っています。自発的に改善を繰り返し、実践できる体制の強化を目指しています。

情報セキュリティー管理

リンテックでは「情報セキュリティー運用細則兼内部監査チェックリスト」に基づき、各部署で内部監査を実施しています。2014年11月には、企業倫理委員会が情報セキュリティーに関する「自己監査」を実施しました。その結果、全国平均で5点満点中、4.6点という高い水準であり、情報セキュリティー管理規程に定められた内容が、各部署において正しく理解されていることを確認しました。

ヘルプライン

リンテックでは、職場の悩みや法令違反を相談する窓口として、ヘルプライン(内部通報制度)を設けています。迅速な相談と調査ができるよう、2008年4月からは第三者機関である顧問弁護士を相談窓口に加えました。また、行動規範ガイドラインにヘルプラインを掲出するなどの社内周知を行い、仕組みを活用することで問題の早期発見・解決を図っています。

2015年4月からは、対象を海外グループ会社にまで広げたグローバルヘルプライン制度を設け、英語での通報も可能としています。

グローバルガバナンスの構築

Voice
01



本社 取締役 監査等委員 山本 敏夫

リンテックグループでは、グローバルガバナンス体制の強化・確立を図るため、関係会社業務規程を定めています。また、国内外グループ会社の管理体制を強化する目的から、グループ各社ごとに主管部署を定め運営全般に関する

支援・指導を実施しています。内部監査部門と監査等委員が連携して、全ての国内外グループ会社の現地監査を行い、内部統制やコンプライアンスの課題抽出と是正を行い、グローバルガバナンスの強化を進めています。

*4 ISO22301:地震や火災、ITシステム障害や金融危機、取引先の倒産、あるいはパンデミックなど、災害や事故、事件などに備えて、さまざまな企業や組織が対策を立案し、効果的かつ効果的に対応するためのBCMSの国際標準規格。

以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
独占禁止法の遵守/汚職、贈収賄の防止

★マークについては、P11に記載。

お客様のために

お客様からの期待に応えるために、製品の安定供給、品質管理の徹底およびサービス向上を推進しています。

● 品質保証

リンテックグループの“ものづくり”は、社是「至誠と創造」の精神を根幹に置き、従業員一人ひとりが品質・環境・安全を常に意識して活動しています。こうしてつくられた製品を通じて、お客様へ“安心”と“信頼”を届けることを目指し、“ものづくり”への挑戦を続けています。WEB

品質保証体制

リンテックグループでは国際標準規格であるISO9001*1の認証取得を基にした品質保証体制を構築しており、新たな拠点での認証取得や拡大・統合認証に積極的に取り組んでいます。2014年度は新たな拠点として、リンテック・タイランド社が加わりました。また、国内拠点では産業工材事業部門へ平塚事業所の統合、海外拠点ではオプティカル材事業部門にリンテック・スペシャリティ・フィルムズ(韓国)社とリンテック・スペシャリティ・フィルムズ(台湾)社の統合とマティコ社(アメリカ)セント・ピーターズバーグ工場の追加を通じて、グローバルな管理体制の構築・展開を進めています。

ISO9001の認証取得状況★

	2012年度	2013年度	2014年度
認証取得数	22	21	20

● CS(お客様満足)向上のために WEB

品質教育

リンテックグループでは、お客様に満足いただける高品質

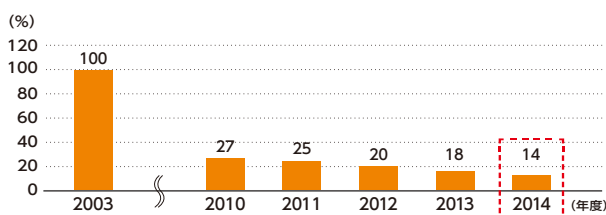
な“ものづくり”のために、ISO規格に基づいたQMS(品質マネジメントシステム)、EMS(環境マネジメントシステム)、BCMS(事業継続マネジメントシステム)*2を取り入れています。各規格の円滑な運用には全従業員の理解と意識向上が不可欠です。そのために外部講習や通信教育への参加、e-ラーニングを含めた社内講習、OJT教育などに力を入れています。2014年度は12講座(OJT教育 品質教育講座受講者数 延べ 除く)を実施し、延べ 3,784人が受講しました。

品質教育講座受講者数 延べ
3,784人

品質事故の予防

リンテックではISO9001を基本としたQMS活動の中で、品質事故の撲滅に努めています。品質事故が発生した際にスピーディな情報の伝達を行うための管理システムを構築しています。情報は関連拠点にいち早く伝達され、速やかな対応が取れる体制を整備しています。情報を蓄積、共有化することで再発防止策へとつなげています。

品質事故件数比率 (2003年度の件数を100%とした比率)



品質向上の成果発表で高評価

リンテック・スペシャリティ・フィルムズ(台湾)社 製造課 副課長 林 宜慶 (リン・イーチェン)

お取引先からの依頼を受け、サプライヤーとしてQCC活動*3に参加しました。最終活動発表会では、全51チームから選抜された当社を含む9チームが発表。4位という高評価を頂くことができました。

今回の取り組みを通じて学んだことを今後も継続的に業務に生かし、一層の品質向上に努めていきます。

Voice
02



*1 ISO9001: 品質マネジメントシステムの国際標準規格。
*2 BCMS: → P20に記載。
*3 QCC活動: Quality Control Circle活動。小グループに分かれて、継続的に品質管理の課題解決に取り組む、適正保持・効率化・改善などの対策を検討・実践する活動。

*4 REACH規則: EUの化学物質規制で、化学物質の登録、評価、認可および制限に関する規制の略称。EU諸国への化学物質を年間1t以上輸出する場合に登録が必要。また、製品中に認可対象候補物質に該当する化学物質を0.1%以上含有する場合は届け出が必要。

お取引先との協働


リンテックグループでは、お取引先との共存共栄を目指して、公正で透明性の高い取引に努めています。

● 公正な取引

リンテックグループでは、全てのお取引先との間で自由な競争原理に基づく公正・透明な取引を行うことを基本方針とし、関連法規・社会規範を遵守した調達活動を行っています。また、お取引先の皆様を「相互発展を目指すパートナー」と考え、信頼関係の構築に努めています。お取引先の選定に当たっては広く門戸を開き、品質・価格・納期・供給安定性・技術力・サービス・環境保全・CSRの取り組みも含め、適正な評価を実施しています。

CSR調達


リンテックグループではお取引先に「リンテック原材料調達基本方針」の理解を深めていただくとともに、さまざまな機会を通して人権尊重、労働・安全衛生、品質・安全性確保、情報セキュリティ、企業倫理などのあらゆる観点からCSRの徹底をお願いします。2014年度もお取引先アンケートを実施し、原材料のお取引先約500社のうち取引金額上位50社★にアンケートを依頼し、その全てのお取引先から回答を頂きました。アンケート結果は供給者評価にも活用し、必要な場合は改善のお願いなどを行っています。2014年度はCSRに関する項目で改善のお願いを行ったお取引先はありませんでした。

今後もアンケートによる現状把握と結果を活用し、調達活動を行っていきます。 

お取引先数

2,799社

グリーン調達

リンテックグループは、環境負荷低減に配慮した調達活動を推進するため「リンテックグリーン調達方針」に基づき、原材料、部品、副資材の化学物質管理を徹底しています。実施にはお取引先の理解が不可欠であり、お取引先での環境保全活動や化学物質管理の推進が重要です。新たな材料を調達する際はもちろん、新たな規制が発生した場合にも該当物質の含有調査をお願いします。2014年度はREACH規則*4の含有調査で、原材料を対象に延べ約12,000品種を対象に調査活動を行いました。引き続き迅速、正確な調査のために、お取引先とのコミュニケーションの強化を図り、グリーン調達を推進していきます。 

紛争鉱物*5への対応

リンテックでは、採掘された鉱物が武装勢力の資金源となる「紛争鉱物」は重大な社会問題であると認識し、原材料における「紛争鉱物」の使用状況を調査し、原材料としてそれらを使用していないことを確認しています。今後も「紛争鉱物」を不採用とする調達管理を行っていきます。

BCPにおけるお取引先との協働

リンテックでは、製品の安定供給に必要な原材料の供給先であるお取引先に対して、その事業継続能力の評価を進めています。2014年度は、全ての製品を対象に①当社向けの在庫保有量、②お取引先における原材料購入ルート、③生産拠点および設備の防災対応、④代替生産拠点の調査を開始しました。

また、お取引先全体に対しては、BCPを導入し組織的に運用する体制の整備や、インシデント*6発生時に対応する組織や手順の整備について、対応の協力要請を行っています。

Voice
03



サプライヤーとの連携強化のために


マディコ社 (アメリカ) オペレーション営業部 シニア営業管理担当 Doreen Sabatino (ドリーン・サバティノ)

マディコ社では、サプライヤーとのさらなる連携強化のためサプライヤーズデーを開催しています。3回目となる2014年5月は、42社55人に参加いただき、当社の経営戦略や生産システム、品質管理などについて説明しました。

また、1年間の功績をたたえたサプライヤー賞の受賞式も行いました。今後もサプライヤーの皆さんとの連携をより一層強化し、製品とサービスの質の向上に努めていきます。

*5 紛争鉱物：米国金融規制改革法において規定された紛争鉱物は、タンタル、錫、タングステン、金。
*6 インシデント：中断や障害、損失、緊急事態・危機になり得る、またはそれらを引き起こし得る状況。

★マークについては、P1に記載。

 以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
リンテックグループ品質・環境・事業継続方針、製品の情報開示、国内外の展示会に出展、リンテック原材料調達基本方針、リンテックグリーン調達方針、リンテック木材パルプ調達方針、グリーンパルプ・ウェイ、ITCサプライヤーズデー開催

従業員とともに

～働きがいのある職場環境に～
(人権・雇用・人材育成)

リンテックグループでは、全従業員が明るく活力を持って仕事ができるように、さまざまな取り組みを行っています。

● 人権と多様性の尊重

リンテックグループでは、全従業員が社是「至誠と創造」の下、ともに働いています。全従業員が平等に働きがいを持てるよう、人種、信条、性別、学歴、国籍、宗教、年齢などによるあらゆる差別的取り扱いをせず、従業員一人ひとりの多様性(ダイバーシティ)を尊重*1しています。また、2011年には強制労働や児童労働の禁止を原則とする「国連グローバル・コンパクト」に参加しました。今後も、全従業員が互いを認め合いながら成長を続けることを目指していきます。

人権尊重の労務管理と教育

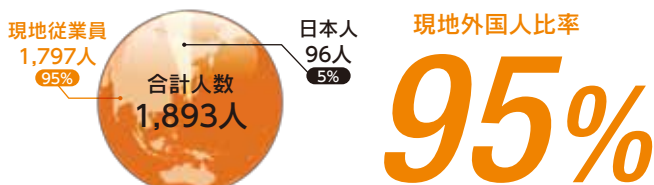
リンテックグループでは、企業活動の根幹に「コンプライアンス」があるとし、国内外の企業活動において「関連法規」並びに「社会ルール」の遵守を徹底しています。これは従業員の採用や就労に関しても同様であり、不当な差別行為、児童労働、ハラスメントの禁止など労働関連法規を遵守した労務管理を行っています。また、2015年度の新入社員32人に対し「国連グローバル・コンパクトとCSR」に関する研修を行うなど、人権教育も実施しています。



新入社員研修での講義

雇用状況★

■海外法人従業員の現地外国人比率



※対象範囲：全海外グループ会社(2014年12月31日現在) ※現地採用の日本人従業員は、現地従業員として算出しています。 ※日本人は日本からの出向者数を表しています。

障がい者雇用

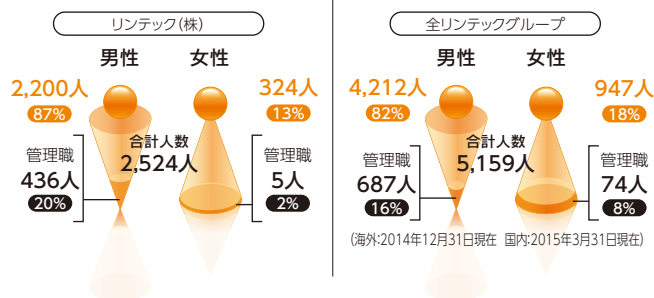
リンテックは障がい者の雇用に努めていますが、2014年度の通期雇用率は1.78%となり、法定雇用率である2.0%を下回りました。

なお、2015年4月1日より人事部内に「業務支援室」を新設、各部署から依頼された業務を行える環境を整え、障がい者を新たに雇用して、各部署の業務支援を行う取り組みをスタートしました。WEB

再雇用制度

従業員の働き方の選択肢を広げるため、リンテックでは2つの再雇用制度を導入しています。ジョブリターン制度では、出産や家族の介護、配偶者の転勤など、さまざまな家庭の事情により自己都合で退職した社員を即戦力として再雇用しています。定年再雇用制度では、60歳で定年を迎えた社員本人が希望した場合、1年間の有期契約で最長65歳まで再雇用しています。2014年度は定年退職者37人のうち22人を再雇用しました。WEB

■男女別従業員数



働きやすく、働きがいのある職場環境のために

Voice 04



本社 人事部 主任 村上 真弓

育児休業から復帰後、「女性活躍促進検討委員会」事務局の一員として活動しています。女性が活躍できるだけでなく、さまざまなライフスタイルや考え方の従業員が、能力を最大限に発揮できる職場づくりに向けた初めの一歩です。

今後、60歳以上の方、障がいのある方、さまざまな国の方など、全ての従業員にとって「より働きやすく、働きがいのある職場環境」を目指し、積極的に意見を出していきたいと思えます。

*1 多様性(ダイバーシティ)の尊重: 人や集団間に存在する多様な個性を尊重することで、適材適所での各能力の発揮や多様な視点での問題解決、独創的なアイデアの創出などを促進。

ワークライフバランス

リンテックでは、社員が安心して仕事に取り組み、その能力を十分に発揮できるよう、働きやすい職場環境の整備や仕事と生活の調和に取り組んでいます。休暇制度では、本人に限らず家族が病気やけがをした際の看護にも利用できる保存休暇制度や、地域貢献活動への参加にも利用できる社会貢献休暇制度などを導入しています。勤務時間の短縮措置についても、育児では対象を満3歳未満から小学校未就学児までに、介護では93日から2年(730日)にするなどの取り組みを実施しています。

また、2015年4月1日から、次世代育成支援対策推進法*2に基づいた行動計画を策定し、活動を推進しています。今後も安心して仕事に取り組める体制づくりに努めます。WEB

次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画

目標①	両立支援の就労整備と、利用しやすい環境整備に取り組みます
対策	<ul style="list-style-type: none"> 育児中の社員への支援制度の拡充について、検討・実施します。 本人にとっても職場にとっても職場復帰しやすい環境づくりのため、上長との面談の機会を設けます。 サポート制度活用ブックや社内イントラネットを通じ、継続的な制度内容の周知を図ります。
目標②	さまざまなライフスタイルや考え方の従業員に対応できる職場づくりを進めます
対策	<ul style="list-style-type: none"> 社内アンケート(育児、介護、勤務体系等)を実施し、現状についての把握と具体的な進め方について検討します。 年次有給休暇の取得促進に向け、アンバーサリー休暇を含む計画年休を導入します。 ダイバーシティ研修等を実施し、意識改革に向けた啓もう活動を行います。

各制度の利用者数

(人)

制度	2012年度	2013年度	2014年度★
介護休業制度	0	1	1
介護休暇制度	2	3	1
保存休暇制度	51	61	65
出産休暇制度	16	16	14
育児休業制度	19	26	25
子の看護休暇制度	10	11	10
時短・時差勤務制度	10	21	28
社会貢献休暇制度	26(延べ54日)	26(延べ50日)	26(延べ47日)

長時間労働対策

リンテックでは長時間労働の弊害を防ぐため、人員の適正配置や業務量の平準化を図るよう努めています。体や心に過度の負担を掛けないように上司が残業時間を管理し、職場ごとにノー残業デーやフレックス勤務制度を設けるなど、業務を効率良く計画的に進めるための仕組みを導入しています。

こまかな労務管理ができるように、勤怠管理システムも導入しています。また、「心の健康診断」を年1回受診することにより、各自がストレスの状況を把握し、メンタルヘルスの自己管理に役立てています。WEB

● 全社階層別研修

リンテックでは、「会社と社会の発展に貢献できる人づくり」を目指しています。多様な価値観を持つ社員一人ひとりが成長と達成感を実感できる人材教育プログラムとして、全社階層別研修を導入しています。この研修は、全社階層別研修参加者 延べ★社員のスキルアップはもとより、各人の自発的なキャリア・デザインを支援しています。WEB

527人

環境教育

リンテックと東京リンテック加工(株)ではISO14001の自覚教育としてe-ラーニングを実施しており、2014年度はエネルギー関係と製品含有化学物質の管理を取り上げ、環境に対する取り組みへの理解を深めました。ISO14001の自覚教育、内部監査員養成教育、生物多様性出前講座などのほか、お取引先への啓発も行っています。また、イントラネットの「リンテック環境・安全インフォメーション」では環境法令のトピックス、用語解説、ISO14001の活動報告などを発信し、一人ひとりの環境に対する意識の向上を図っています。WEB

自己啓発通信研修

リンテックでは希望する社員に対し、年2回の通信研修を実施しています。この通信研修は自己啓発を目的とし、期間内の受講修了者には会社が費用の一部を補助する仕組みになっています。通信研修の内容は経営、ビジネススキル、パソコン技能、外国語、教養、各種資格取得などさまざまです。今後も自己啓発の一助として継続していきます。WEB

Voice
05



制度と周囲の支援で、仕事と家庭を両立

飯田橋オフィス 事業統括管理室 海老原 美香

私は1時間の時短勤務制度を利用し、2歳の男の子を育てています。両立は大変なこともありますが、とても充実しています。復帰後、子供の体調不良で急な休みが必要なときなど、育児に関するサポート制度をいくつか

利用しました。会社の制度充実に加えて、両立に理解を示しサポートしてくれる上司・同僚・家族にはとても感謝しています。まわりの理解があるからこそ、続けられると実感しています。

*2 次世代育成支援対策推進法：日本の急速な少子化の進行や家庭および地域を取り巻く環境の変化に鑑み、次世代育成支援対策を推進し、次代の社会を担う子供が健やかに生まれ、育成される環境整備を目的とした法律。

★マークについては、P11に記載。

WEB 以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
障がい者雇用率、ジョブリターン制度、高齢者雇用者数、労使関係、社員支援の制度、メンタルヘルス対策、2014年度階層別研修スケジュール、2014年度研修内容と受講者数、CSR説明会／情報セキュリティ教育、2014年度環境教育延べ受講者数、リンテック環境・安全インフォメーション、技術に親しむ会、自己啓発通信研修受講者数、語学研修、コミュニケーションマガジンの発行、CSRコミュニケーション

従業員とともに

～安全な職場環境～ (安全防災)

リンテックグループで働く人々が、安全で安心して働けるよう、さまざまな取り組みを行っています。

● 労働安全

労働安全衛生方針

リンテックグループは、2010年に「リンテック労働安全衛生方針」を制定し、OSHMS(労働安全衛生マネジメントシステム)*1に準拠して継続運用しています。

全社的な活動として安全相互監査計画や火災予防の着火事故予防パトロール計画を、工場での活動として年間安全衛生計画をそれぞれ策定し、OSHMSによるPDCAサイクルを回しています。また、工場で安全活動に従事しているメンバーと安全事務局メンバーによる安全検討委員会では、全社的な安全ルールを検討しています。今後も無事故・無災害に向けて活動を推進していきます。[WEB](#)

年間安全衛生計画

リンテックグループでは安全衛生活動の年間計画を策定し、PDCAサイクルを回すことで安全衛生を管理しています。

2014年度は、安全相互監査・着火事故予防パトロール、トップパトロールを実施しました。各工場においても工場トップ、管理職、労働組合メンバーによるパトロールや、従業員による自主パトロールなどを行い、海外グループ会社2社(リンテック・インドネシア社、マティコ社)の着火事故予防パトロールも実施しました。さらに、全事業所や国内・海外グループ会社および役員にも安全衛生委員会の議事録を配信することで情報を共有しています。

年間安全衛生計画に含まれる項目

- 安全衛生委員会の開催
- パトロール計画
- 安全教育
- 訓練計画
- 点検・測定
- 作業環境測定
- 健康診断
- 内部監査
- マネジメントレビューなど

安全衛生委員会・衛生委員会

リンテックグループでは毎月、職場の安全と衛生に関して各委員会と協議しています。2014年度は災害速報や委員会議事録の配信方法を見直し、日本語版に加えて英語版でも配信を行い、グループ全体での安全管理を推進しています。

職場の安全と衛生に関する委員会


委員会	対象	活動内容
安全衛生委員会	工場・研究所	○計画の実施 ○災害の発生状況、安全教育実施状況、設備の点検結果、パトロール時の指摘・改善状況などの情報共有
衛生委員会	本社や営業部門がある事業所	○健康や安全運転、防災活動などについて協議

休業災害

リンテックグループでは、2014年度の休業を伴う労働災害(休業災害)は2件発生し、休業日数は累計81日でした。件数、休業日数とも2年連続で減少していますが、勤続年数の少ない作業員による休業災害発生傾向は変わらず、また、回転体による災害が発生しました。作業内容に則した安全ルールの明確化をさらに進め、労働災害ゼロを目指して取り組んでいきます。(海外グループ会社を除く)

休業災害の発生状況

年度	2012年度	2013年度	2014年度
休業災害発生件数(件)	6	4	2
休業日数(日)	361	245	81
発生場所	リンテック、協力会社	リンテック、協力会社	リンテック



Voice
06

協力会社とともに消防訓練を実施

リンテック・コリア社(韓国) 製造部 部長 金辰熙(キム・ジンヒ)

リンテック・コリア社では、2014年10月31日に68人(当社55人、協力会社13人)が参加した全体消防訓練を実施しました。今回の訓練では、溶剤取り扱い中の火災発生を想定し、初期対応、避難、救助活動、消火器・消火栓を利用した消火活動を行いました。雨の中、全員が積極的に訓練に参加し、自分や仲間の命の重要性を考え、緊急事態の際には、冷静に判断・行動しなければならないことを学びました。

*1 OSHMS : Occupational Safety and Health Management System (労働安全衛生マネジメントシステム)の略称。事業所における安全衛生水準の向上を図ることを目的とした、事業者の自主的なマネジメントシステム。

*2 連続完全無災害時間 : 各事業所で常時働いているリンテックおよび協力会社の従業員を対象にした、労働災害(不労災害、休業災害、労災該当の通勤途上災害)がない労働時間の総累計。

無災害に向けて

リンテックグループでは、無災害に向けた表彰制度を設けています。新宮事業所(新居浜加工所含む)は、2014年9月2日に連続完全無災害時間*2150万時間を達成し、2010年12月24日～2015年3月31日まで完全無災害1,728,520時間を継続中です。毎月の全体安全パトロールおよび各課による5S*3を含めた安全パトロールを充実させ、指摘については迅速な改善に努めています。またKYT活動*4で、他工場の事例を基にした災害防止を図ったことが、安全意識向上と成果につながりました。

今後も全従業員の協力により安全な作業環境を整えるために、

五感を働かせた行動と職場内でのリスクアセスメント活動による危険個所の洗い出し、リスク評価を行い、さらなる連続完全無災害時間継続に向け取り組みます。

(海外グループ会社を除く)



社内表彰を受ける新宮事業所

2010年12月24日～2015年3月31日
連続完全無災害継続(新宮事業所)★

1,728,520 時間

2014年度 完全無災害時間 (2014年4月1日～2015年3月31日)

達成年月	事業所	達成時間(時間)
2014年	4月 7日	吾妻工場 100万
	4月 18日	研究所 150万
	5月 2日	三島工場 50万
	7月29日	千葉工場 100万
	9月 2日	新宮事業所 150万
	10月 6日	研究所 175万
	12月 4日	三島工場 100万
2015年	1月15日	熊谷工場 50万
	3月20日	龍野工場 50万
	3月25日	三島工場 125万
	3月26日	研究所 200万
	3月26日	吾妻工場 50万
	3月31日	新宮事業所・東京リンテック加工 伊奈テクノロジーセンター 1年間無災害

各生産拠点でトップパトロールを実施

西尾社長が国内外の生産拠点・研究所のトップパトロールを行いました。各拠点での“安全最優先の徹底”を推進するべく、製造現場で作業する従業員へ声を掛けながら、安全作業の励行や整理整頓などの5Sの進捗状況を視察しました。各拠点では現場管理レベルのさらなる向上のため、このトップパトロールの結果を基に、さまざまな改善策を施しています。



龍野工場での視察

● BCMSにおける防災対策

BCMSにおける防災・減災対策では、人命最優先としたリスクアセスメントを実施しています。リンテックでは全ての拠点において災害別の危険を特定し、分析・評価を実施。防災対策が不十分な場合は、拠点ごとに対策を立案し実行することをBCMSのルールに定めています。また、これらの災害対策は演習を行うことで、対策の妥当性・効果性を高めています。

防災訓練

リンテックでは、BCMS演習として各拠点でさまざまな訓練を実施するとともに、防災用品の準備や衛星電話の導入による通信手段の複数化など、リスクの低減に努めています。

2014年10月20日には「全国的な震度6弱の地震発生」を想定し、国内26拠点と協力会社から約3,600人が参加し、安否確認訓練を実施しました。今後も年に複数回の訓練を実施する予定です。WEB

Voice
07



体験機により災害撲滅

三島工場 事務課 課長 近藤 素司

三島工場では回転体災害撲滅に向け、巻き込まれ体験機と食い込まれ体験機の2台の安全体験機を製造しました。体験した従業員は、巻き込まれる瞬間の怖さやベルトに挟まれた木片の折れる様子から、回転体に手を出す

危険を実感し、安全意識の向上に役立っています。現在、この体験機を各工場へ展開し、リンテック全体の回転体災害防止を図っています。

*3 5S：整理、整頓、清掃、清潔、しつけの頭文字の5つの「S」を取ったスローガン。職場環境の維持や改善に用いられる。

*4 KYT活動：危険予知訓練。事故や災害を未然に防ぐことを目的に、小集団でその作業に潜む危険を予想し、指摘し合う訓練。

★マークについては、P11に記載。

WEB 以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
リンテック安全衛生マネジメントシステム組織図、リンテック労働安全衛生方針、
リンテック労働安全衛生マニュアルの概要、定期安全協議会の開催、
2014年度 防災訓練

地域社会とともに (コミュニティ参画)

リンテックグループは、地域や社会に支えられ、その一部であることを認識し、社会との共生を図るためのさまざまな貢献活動を行っています。 WEB

継続的被災地支援

リンテックグループでは、東日本大震災からの復興に向けた継続的支援活動を行っています。

2014年度からは板橋区(リンテック本社所在地)と「連携協力協定」を締結している岩手県大船渡市への支援金を募り、従業員からの寄付金に、会社とリンテックフォーレスト*1から、それぞれ同額を加えたマッチングギフト形式で寄付しました。寄付金は、中学校の運動環境改善整備事業の費用として利用され、生徒の体育・スポーツ活動の充実に役立っています。また本社では福島物産展を開催し、福島の経済活動を応援しました。今後もさまざまな形で復興支援活動を継続していきます。



大船渡市副市長が来社



福島物産展の様子

地域安全活動

伊奈町消防署で毎年行われている屋内消火栓操法大会に、伊奈テクノロジセンターから男女各1チームが参加しました。この大会は、町内の各企業・団体の代表が屋内消火栓設備の取扱技術を競い合うものです。女子チームは練習の成果を出し切り第3位に入賞、個人の部でも優秀選手賞に選ばれました。今後も、大会への参加を通じて、地域住民の皆様とともに防災意識のさらなる向上につなげていきます。

障がい者支援

2014年4月、東京ドームで行われたプロ野球「北海道日本ハムファイターズ対福岡ソフトバンクホークス」の試合に、板橋区在住の障がい者の方とその介助者計115人をご招待しました。本活動は今回で8回目を迎え、観戦後には「ありがとう、楽しかった」「来年もこの催しにぜひ参加したい」など、多くの感謝の言葉と笑顔を頂きました。今後も地域の皆様喜んでいただける社会貢献活動を継続していきます。

美化清掃活動

リンテックグループでは、全ての工場周辺地域の美化・清掃活動を継続的に実施しています。千葉工場では「ごみゼロ運動」として工場のあるみどり平工業団地周辺で、熊谷工場では「荒川河川敷の清掃」として工場周辺の荒川土手で、小松島工場では「リフレッシュ瀬戸内」として横須海岸で、近隣企業や地域住民の皆様と協力しながら、社会貢献の一環として地域環境を美しく保つ清掃活動に積極的に取り組んでいます。 WEB



熊谷工場の荒川河川敷の清掃

地域の美化清掃活動への参加者 延べ

2,813人

Voice
08



アフリカの子供たちに帽子を贈りました

リンテック・スペシャリティィー・フィルムズ(韓国)社 製造部 主任 Han Yu Ra (ハン・ユラ)

国際援助団体(NGO)セーブ・ザ・チルドレンの「新生児帽子編みキャンペーン」に参加しました。気温差の激しいアフリカ諸国で低体温症により死亡してしまう新生児を救うため、小さな帽子を編んで贈る活動です。

多くの従業員が自主的に参加し、39個の帽子をつくりアフリカの子供たちに寄贈しました。


*1 リンテックフォーレスト: リンテックの労働組合。

WEB 以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
リンテックグループの社会貢献活動一覧、団体献血、植樹活動、地域の祭事への協賛、地域の祭事への参加、次世代育成、2014年度 美化・清掃活動、活動に対する主な表彰、2014年度工場・施設見学の受け入れ

環境マネジメント

「地球は一つ、大きな視野で快適環境に尽力しよう」をスローガンに、環境マネジメントシステムを構築し、多角的な取り組みを推進しています。

● リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

リンテックグループは、「リンテックグループ品質・環境・事業継続方針」を定めています。この方針は、品質・環境に関する行動指針に、自然災害やパンデミック*2などの発生に備えた事業継続に関する行動指針を加え、さまざまな側面から社会的責任を果たす内容となっています。環境分野ではCO₂排出量、電力使用量などに中期目標を定め、目標を明確化した環境保全活動を推進しています。 

環境分野におけるリンテック中期目標(2014年～2016年)

CO ₂ 排出量	対前年度原単位比で1.6%削減
電力使用量	対前年度原単位比で0.2%削減
廃棄物発生量	前年度発生量から0.1%削減
用水使用量	対前年度原単位比で2%削減

● 環境マネジメントシステム統合認証

リンテックグループでは、ISO14001のグローバル統合認証*3取得を進めています。2014年11月～2015年1月に受審した更新審査および変更審査により、マティコ社(アメリカ)セント・ピーターズバーグ工場の統合が認証されました。これにより海外グループ10社を統合し、本社、国内10工場、研究所および東京リンテック加工(株)と合わせて23拠点になりました。今後もグループ一体となって環境保全活動に尽力し、ISO14001のグローバル統合認証取得を進めていきます。

● 内部環境監査の実施

リンテックでは、環境マネジメントシステムに基づいた各サイトの適切な運用および法令・規定の遵守状況などを確認するため、サイト内部監査およびサイト相互監査を実施。サイト相互監査は、リンテック独自の **サイト相互監査担当の主任監査員人数** 資格である「主任監査員」を持つ従業員が担当しています。2014年度は主任監査員を11人養成し、累計175人となりました。

175人

● 生物多様性保全のための取り組み

近年、自然環境の破壊などにより生態系のバランスが壊れつつあるといわれ、生物多様性の崩壊が危惧されています。リンテックグループは、リンテックグループ品質・環境・事業継続方針に“生物多様性の保全”を盛り込み、ISO14001の統合認証を取得した23拠点を中心に、生物多様性保全に向けた活動を推進しています。今後も各拠点において地域に根付いた活動を継続し、生物多様性の保全に努めていきます。



「リンテックエココース」で生物多様性の情報を発信

Voice
09



花壇の整備を通じて、生物多様性を学ぶ


琳得科(蘇州)科技有限公司(中国) EMS事務局 楊水芳(ヤン・スイファン)

琳得科(蘇州)科技有限公司では、生物多様性に関する従業員の理解促進を目的に、2014年9月に花壇を設置しました。全従業員が花壇整備に参加できるよう、花壇は事業所の構内に設け、部署ごとに区分けしています。花々の世話を

しながら、飛来する昆虫などを観察し、“生物多様性の保全”への意識向上を図っていきます。

*2 パンデミック：感染症などが世界的規模で流行すること。

*3 グローバル統合認証：世界中にある複数の会社・事業所を一つの組織体としてまとめて取得する、ISO14001の認証。

 以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
環境コンプライアンス、
リンテックグループ品質・環境・事業継続方針

地球温暖化防止への対応

事業活動を継続する上で大きなリスクとなる地球温暖化や気候変動などに対応するため、さまざまな環境活動に力を注いでいます。

● 製造における取り組み

省エネルギー法への対応状況

国内リンテックグループ*1全体のエネルギー使用量は、原油換算で年間1,500kℓを超えています。そのため「エネルギーの使用の合理化等に関する法律(略称:省エネルギー法)」に基づき、特定事業者の指定を受け、エネルギー原単位を年1%以上改善することが求められています。2014年度は、生産設備の効率運転、空調管理やLED照明採用の拡大、排熱回収利用、VOC燃焼熱利用などの省エネルギー活動を推進しました。

省エネルギー推進委員会

省エネルギー法に対応するため、国内リンテックグループでは、省エネルギー推進委員の管理下で、各事業所のエネルギー使用データを毎月集計し、省エネルギー活動を推進しています。2014年度は、省エネルギー法に基づき選任したエネルギー管理者を招集し、ムダ・ムラの削減について再確認しました。また、龍野工場では焼却炉ボイラーにエコマイザー*2を設置し、流出する熱量を低減しました。



焼却炉ボイラーにエコマイザーを設置(龍野工場)

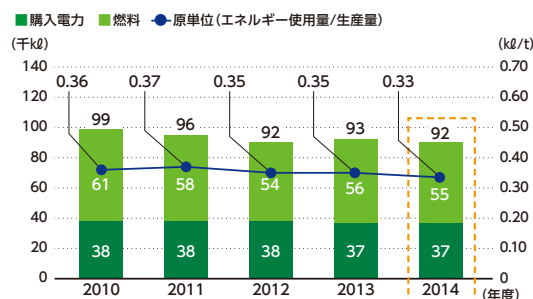
エネルギー総使用量・CO₂排出量

国内リンテックグループにおける2014年度のエネルギー総使用量(原油換算)については、生産量が増加したものの前年度から1.2%減少しました。エネルギー原単位は4.6%

改善し、0.3289kℓ/tになりました。なお、電力使用量は、1.8%改善しました。また、2014年度のCO₂排出量は202千tとなり、目標排出量205千t以下を達成しました。

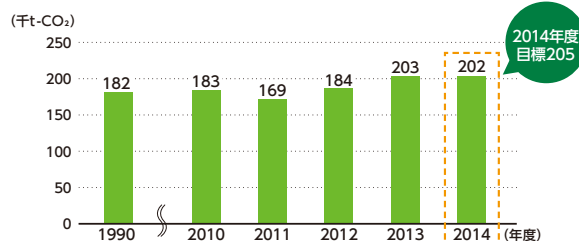
2015年度は、2014年度原単位比で、CO₂排出量は1.6%、電力使用量は0.2%の改善を目指しています。

エネルギー総使用量(原油換算)



注) 燃料とは、灯油、A重油、LNG、LPG、都市ガスです。

CO₂排出量



注) 1.CO₂排出量は、電力・燃料使用量におおのこのCO₂排出係数を乗じて算出しています。
2.1990年度のCO₂排出係数は、地球温暖化対策の推進に関する法律施行令第3条第1項で定める排出係数の2002年12月改正値を使用しています。2010年度以降のCO₂排出係数は、同施行令で定める排出係数の2010年3月改正値を使用しています。また、購入電力の使用にかかる排出係数には、当該施設に電力を供給している電力会社の実排出係数を使用しています。
3.上記排出量は、化石エネルギー起源の燃料によるCO₂排出量です。

電力および資源の削減活動を推進

Voice
10



普林特科(天津)標簽有限公司(中国) 品質保証課 班長 王福英 (ワン・フイン)

普林特科(天津)標簽有限公司では、2013年11月より、電力および資源の削減などに努めています。電力の削減活動は、昼間は廊下の電灯を消す、空調機の温度調整(夏場28℃以上、冬場23℃以下に設定)などの節電を心掛けています。

資源の削減活動では、書類を電子版(PDF)で管理し、プリンタ用紙の削減に取り組んでいます。今後も温暖化対策を継続し、環境に配慮した活動を全従業員で推進していきます。

*1 国内リンテックグループ: リンテック(株)およびリンテック(株)の営業拠点、東京リンテック加工(株)、大阪リンテック加工(株)、プリンテック(株)、リンテックサービス(株)、リンテックコマース(株)。

*2 エコマイザー: ボイラーの燃焼排ガス熱を効率良く回収してボイラーへの給水を予熱し、ボイラー効率を向上させる装置。

*3 トンキロ: 貨物の輸送量を表す単位で、貨物のトン数とその輸送距離を掛け合わせたもの。1tの貨物を1km輸送した輸送量が1トンキロ。

*4 LCA: → P18に記載。

● 排ガス処理装置の改造などによりCO₂排出量を削減

新宮事業所龍野事務所では、粘着塗工工程で使用する粘着剤を見直し、VOC(揮発性有機化合物)濃度の低い品種に変更しました。また、排ガス処理装置を改造し、LNG使用量を約50%削減しました。さらに、排熱ボイラーの設置により、さらなるLNG使用量削減を実現しています。こうした取り組みが実を結び、2013年度より生産量が約40%増加したにもかかわらず、CO₂排出量は約8%削減しました。



新宮事業所に設置した排熱ボイラー

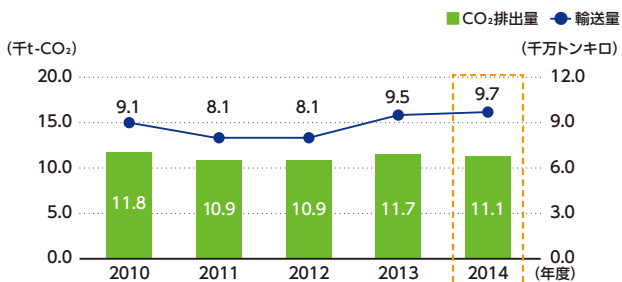
● 物流における取り組み

リンテックは省エネルギー法の定める特定荷主(委託貨物輸送量3,000万トンキロ*3/年以上)に該当しているため、これに対応するための計画を国に提出(年1回)しています。2014年度の輸送によるCO₂排出量は生産量の増加に伴い増加し、エネルギー使用量は約1.9%増加、一方、エネルギー使用量原単位(売上高当たり)は約2.3%減少しました。今後も引き続き、輸送効率向上に取り組んでいきます。



三島工場における輸送頻度削減に向けた取り組み

CO₂排出量と輸送量



● 製品開発における取り組み

● 環境配慮製品のガイドライン策定と運用

リンテックでは、LCA*4基準に準じた環境配慮製品の開発を進め、2014年度は23件(目標12件)の開発を行いました。また、ISO14021*5に準拠した“自己宣言型環境配慮製品”のガイドラインに沿って既存製品を見直しました。今後も引き続きこれらのガイドラインを運用し、環境配慮製品の開発に努めていきます。

● 環境負荷低減に役立つ製品の開発

リンテックグループでは、環境・エネルギー分野を製品開発重点テーマの一つに位置づけています。主な製品として、高い断熱性で節電・省エネルギーに貢献するウインドーフィルムや、プラスチック成形品と同質同素材を使用し、リサイクル・リユースの促進に貢献するラベル素材などがあります。今後も環境負荷低減と省エネルギーに役立つ製品開発に力を注ぐとともに、お客様に満足していただける製品開発を継続していきます。

● 資源循環促進に貢献する新製品「カイナスシリーズ KP5000」

リンテックは、環境配慮製品「カイナスシリーズ」の新製品として、メカニカルリサイクルPETを使用したラベル素材「KP5000」の販売を2015年2月より開始しました。メカニカルリサイクルとは、分別ごみとして回収されたペットボトルを活用し、高品質かつ衛生的な再生PET樹脂を生成するリサイクル手法です。「KP5000」では、再生樹脂を80%以上含有したフィルムを使用しています。同製品をお客様にご利用いただくことで資源循環の促進につながり、石油資源の枯渇抑制や、環境負荷低減に貢献することができます。



KP5000を使用したラベル



エコプロダグツ2014に出展

省エネ対応の空調設備を導入

Voice
11



生産システム技術部 設備システム課 係長 岸野 修二

研究所では18年以上使用してきた標準環境試験室の更新にあたり、CO₂削減を考慮した空調設備を導入しました。標準環境試験室は、物性測定を実施する際の標準環境を維持するため、常に空調管理する必要があります。2014年10月より

新しい空調設備の運用を開始し、1か月平均で約26kWhの消費電力削減を達成、年間100t以上のCO₂削減につながる見通しです。こうした省エネ設備の導入をはじめ、今後もさまざまな形で環境に配慮した対応を心掛けていきます。

*5 ISO14021:「環境ラベルおよび自己宣言-自己宣言による環境主張(タイプII 環境ラベリング)」のための国際標準規格。企業自らが基準を設け、これを満たすことでラベルを付与することができる。

以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
太陽光発電、物流におけるエネルギー使用量、
CO₂排出量削減の取り組み/LNGへの燃料転換、照明用電力の削減、
環境配慮粘着剤を採用したラベル素材

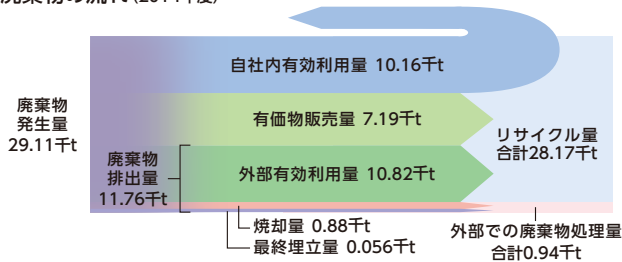
廃棄物・用水使用量の削減

循環型社会の実現に向け、廃棄物削減に取り組むとともに、節水と回収水の再利用、排水基準の遵守、排水水質にも十分に注意を払っています。

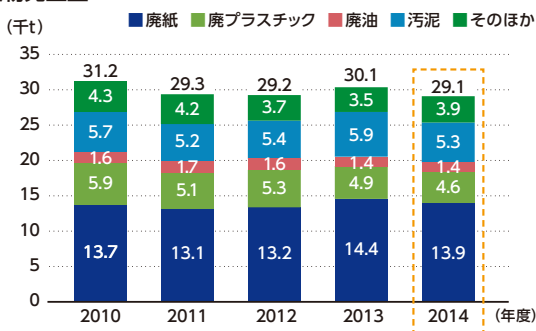
● 廃棄物の発生量と有効利用量

リンテックにおける2014年度の製造ロスを含めた廃棄物発生量は29.11千tで、廃棄物排出量は11.76千tとなりました。このうち10.82千tは外部で再資源化され、それ以外の0.94千tは委託している廃棄物処理業者により、適正に処分されました。2014年度の最終埋立比率*1は約0.19%となり、目標(0.2%以下)を達成し、2007年度から継続して、最終埋立比率1.0%以下のゼロエミッション*2を達成しています。2014年度から2016年度における廃棄物発生量は、対前年度発生量の0.1%削減を目指しています。

廃棄物の流れ (2014年度)



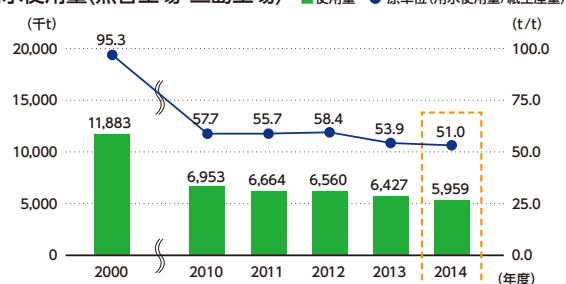
廃棄物発生量



● 用水使用量と節水対策

リンテックにおける2014年度の用水使用量は6,504千tでした。このうち約93%を製紙部門がある熊谷工場と三島工場で使用しています。生産工程における用水使用量の削減により、両工場の2014年度の用水使用量は前年度比で約7%減少、用水原単位(紙生産量当たり)は前年度から2.9t/t減少(原単位比5.4%減少)しました。節水対策として、製紙部門の各工程で用水使用量の削減に取り組むほか、配管の見直しや漏水対策を行っています。また、回収水の再利用による用水と排水の削減を図っています。2014年度から2016年度は原単位比で対前年度2%削減を目指しています。WEB

用水使用量(熊谷工場・三島工場)



排水量削減と排水水質の改善

リンテックにおける2014年度の排水量は6,197千t/年でした。その約93%が熊谷工場と三島工場からの排水となっています。製紙工程における配管ラインの洗浄工程の見直しにより、用水使用量と排水量の削減に努めています。今後も継続して排水処理設備の適切な維持管理により、排水水質のさらなる向上に取り組んでいきます。WEB

Voice
12



市から認定された3Rの取り組み

龍野工場 設備技術課 動力係 係長 中安 祐司

龍野工場でも、リンテックグループの各工場が実施している3R(リデュース、リユース、リサイクル)の取り組みを徹底しています。ごみの減量、分別徹底、地域の美化などを継続的に実施していることが認められ、2014年11月に

たつの市から「ごみ減量化・再資源化活動推進宣言の店(たつのエコマスターショップ)」に認定されました。

*1 最終埋立比率: 次式で求められる数値。最終埋立比率=最終埋立量/廃棄物発生量×100
 *2 ゼロエミッション: リンテックでは、最終埋立比率が1%以下であることが基準。
 *3 PRTR: Pollutant Release and Transfer Register(化学物質排出把握管理促進法に基づく化学物質の排出移動量届出制度)の略称。化学物質の排出量・移動量に関するデータを把握・集計し、国に報告して公表される仕組み。
 *4 PCB: ポリ塩化ビフェニルの略称。PCBを含む廃棄物については、PCB特別措置法(ポリ塩化ビフェニル廃棄物

の適正な処理の推進に関する特別措置法)により、その適正な保管・管理・処理が義務づけられている。
 *5 SDS: Safety Data Sheet(安全データシート)の略称。有害性のある化学物質を含む製品をほかの事業者が譲渡または提供する際に、対象化学物質の取り扱いなどに関する情報を提供するための文書。
 *6 GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals(化学物質の分類および表示に関する世界調和システム)の略称。化学物質の危険有害性に関する国際的な危険有害性分類基準と表示方法に関する仕組み。

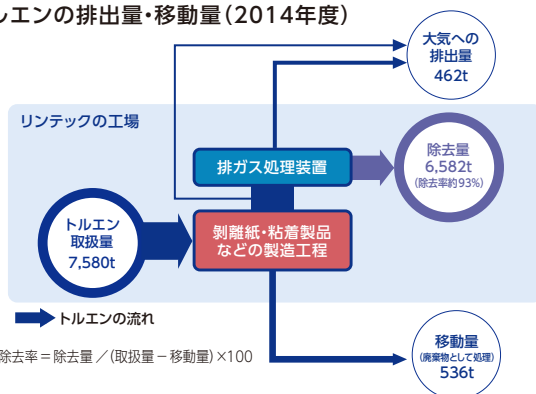
環境負荷物質の削減

国内外における関連法令や各種規制を遵守し、環境に負荷を与える化学物質の削減に努めています。

● PRTR*3への対応

リンテックが2014年度に届け出たPRTR対象物質は10物質で、総取扱量は7,641tでした。取扱量が最も多かった物質はトルエンで、その取扱量は7,580tとなり、前年取扱量(7,464t)より116t増加しました。2014年度のトルエンの大気への排出量は462tで前年度排出量(477t)より15t減少し、移動量は536tで前年度(569t)より30t減少しました。

トルエンの排出量・移動量(2014年度)



● PCB*4適正管理

リンテックでは、PCBを含む廃棄物を適正に保管・管理しています。2014年度は低濃度廃棄物6台を処分しました。2015年3月に保有台数の調査を実施し、高濃度廃棄物78台(うち蛍光灯安定器50台)、低濃度廃棄物11台を保有していることを確認しました。今後は、含有の可能性のある器機の分析と低濃度廃棄物の早期処分を行い、高濃度廃棄物は継続して法令に基づき厳重に保管・管理していきます。WEB

● VOC(揮発性有機化合物)の削減

無溶剤化率の推移

リンテックでは、製品設計と排ガス処理設備の設置・運用の両面から、VOCの削減を推進しています。製品設計の側面からは、VOCのうち有機溶剤使用量の削減に向け、剥離紙に用いる剥離剤と印刷関連粘着製品に用いる粘着剤の無溶剤化を進めています。2014年度の剥離紙の無溶剤化率(生産量ベース)は51%、印刷関連粘着製品の無溶剤化率(販売量ベース)は72%でした。無溶剤化が可能な剥離剤および粘着剤のうち、主要なものはほぼ切り替えが完了しており、また排ガス処理設備の設置も完了していますが、引き続き、無溶剤化率の数値管理と排ガス処理設備の確実な運用で、環境負荷低減に努めていきます。WEB

無溶剤化率
(2014年度販売量ベース)
72%

● 化学物質管理、各種環境規則への対応

リンテックでは、原材料の環境負荷物質含有調査を行い、必要な情報をお客様に開示しています。また現在、SDS*5対象製品におけるGHS*6対応への準備を進めるなど、REACH規則*7を含む各種環境規制への対応を推進し、製品含有化学物質のさらなる管理効率化に取り組んでいます。今後、RoHS指令*8の制限物質の追加が予定されているため、環境に配慮した対象化学物質の削減・代替も継続しています。WEB

Voice
13



フロン排出抑制に向け、管理体制を強化

吾妻工場 製造部 設備技術課 関 信明

フロン回収・破壊法が改正され、フロン排出抑制法*9として2015年4月より施行されました。リンテックでは、各事業所における管理体制をさらに強化しています。吾妻工場は冷媒フロンを使用する設備が多く、2014年度より空調設

備メーカーや群馬県から指導を受けるなど、準備を進めてきました。今後もフロン類の大気放出の防止に努め、法令を遵守するとともに、地球温暖化防止に貢献していきます。

*7 REACH規則：→ P22に記載。

*8 RoHS指令：電子・電気機器における特定有害物質の使用制限についてのEUによる指令。

*9 フロン排出抑制法：正式名称は「フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律」。フロン類の回収・破壊に加え、フロン類の製造から廃棄までのライフサイクル全体にわたる包括的な対策を行うことが求められている。



以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。

3Rの取り組み、用水使用から排水までの工程、熊谷工場・三島工場排水水質、PCBの適正保管・管理状況、災害や化学物質の漏洩事故などを想定した訓練、印刷関連粘着製品と剥離剤の無溶剤化率、製品情報提出の流れ

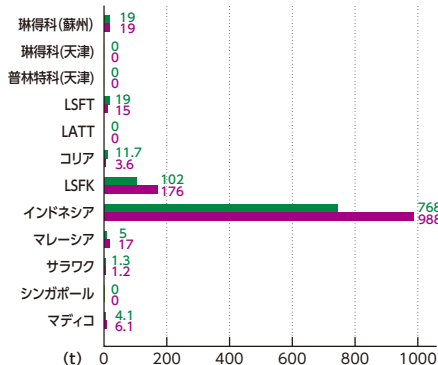
海外グループ12社の環境保全活動

グローバル企業としての責任を果たすため、海外グループ各社における環境保全活動を世界各地で推進しています。

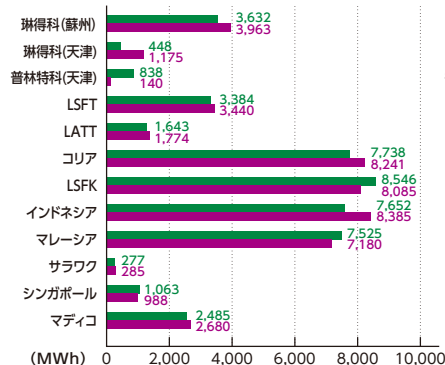
環境パフォーマンスデータ 海外グループ会社12社における環境パフォーマンスデータは以下になります。

2014年データ(集計期間:2014年1月1日から2014年12月31日まで) 2013年データ(集計期間:2013年1月1日から2013年12月31日まで)

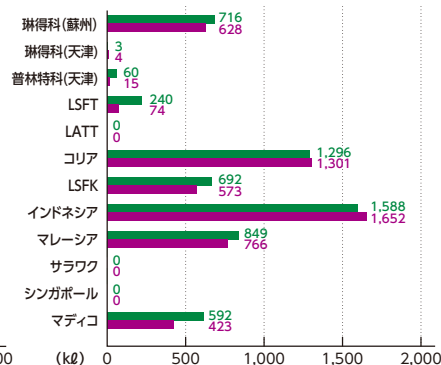
VOC排出量



電力使用量



燃料(軽油/天然ガス)使用量(原油換算)



注) 1. VOCは、トルエン、メチルエチルケトンを対象としています。2. 燃料使用量の原油換算に用いた各燃料の発熱量は、省エネルギー法施行規則第4条に規定されている数値を使用しています。3. LSFT:リンテック・スペシャリティ・フィルムズ(台湾)社 LATT:リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(台湾)社 LSFK:リンテック・スペシャリティ・フィルムズ(韓国)社

琳得科(蘇州) 科技有限公司

所在地:中国 江蘇省蘇州新区 従業員数:197人
主要事業:印刷材・産業工材および洋紙・加工材関連製品の製造販売

2013年度の第1工棟および付属棟屋根面への遮熱塗装に引き続き、2014年4月に、第2工棟危険物倉庫(床面積400㎡、軒高6m)の屋根面と壁面に遮熱塗装を施工しました。今後も工場の省エネルギー化を推進し、CO₂排出量の削減に貢献していきます。



第2工棟危険物倉庫の外観

工務科
張 旭東
(ザン・シードン)



琳得科(天津) 実業有限公司

所在地:中国 天津市南開区 従業員数:91人
主要事業:印刷材・産業工材関連製品の製造販売

工場内照明のLED化を進め、加工現場14基と組立現場16基、合計30基の照明をLEDに交換しました。また、リンテックグループCSRレポート2014を研修



組立現場のLED照明

用テキストとして使用し、全従業員対象のCSRテストを実施するなど、従業員の意識啓発にも取り組んでいます。

総務・人事部
賈 軍
(ジャー・ジュン)



普林特科(天津) 標籤有限公司

所在地:中国 天津市西青經濟開發区 従業員数:87人
主要事業:印刷材・産業工材関連製品の製造販売

2014年12月に、従業員全員で生物多様性に関する勉強会を行いました。2012年に「絶滅危惧種」に指定されたキジバトの成長記録を追った写真とビデオを鑑賞し、生物多様性の重要性について勉強しました。



生物多様性の勉強会

品質保証室
張 琨
(ジャン・クン)



リンテック・スペシャリティ・フィルムズ(台湾)社

所在地:台湾 台南市善化区 従業員数:96人
主要事業:電子・光学関連製品の製造販売

排ガス処理装置の蓄熱炉材部で目詰まりが発生し、蓄熱効率が低下していたため、加熱用ガス使用量が大幅に増えていました。抜本的対策として2014年11



排ガス処理装置の外観

月に蓄熱炉材部の更新工事を実施し、現在では、加熱用ガス使用量を当初設計値の半分まで低減することができました。

副工場長
劉 芳源
(リウ・ファンユエン)



リンテック・アドバンス・テクノロジーズ(台湾)社

所在地:台湾 高雄市前鎮加工出口区 従業員数:70人
 主要事業:電子・光学関連製品の製造販売

工場排水の管理維持体制を強化するため、2015年2月に、既設排水処理設備のリターン処理ユニットを増設しました。また、2015年4月より、事務所内の蛍光灯を順次LED照明に交換予定です。今後も継続して省エネルギー化を推進していきます。



排水処理設備

管理部 工務課
 江 徳維
 (ジャン・デーウェイ)



リンテック・コリア社

所在地:韓国 忠清北道清州市 従業員数:72人
 主要事業:電子・光学関連製品の製造販売

倉庫の照明を水銀ランプからLEDに交換しました。これにより、倉庫照明に使われる年間の電力使用量は約1/4まで削減される見込みです。また、作業環境の改善にもつながりました。今後も省エネルギー活動に取り組んでいきます。



倉庫内のLED照明

工務課
 金 在協
 (キム・ジェヒョップ)



リンテック・スペシャリティー・フィルムズ(韓国)社

所在地:韓国 京畿道平澤市 従業員数:124人
 主要事業:電子・光学関連製品の製造販売

2014年11月より、節電を目的に空調機と冷凍機の一般インバーターを高効率インバーターに入れ替えました。これにより該当設備に対して約10%以上の省エネルギー効果があり、期待される年間削減量は約261千kWh(約91.6t-CO₂)になります。



高効率インバーター

設備技術部
 金 明珍
 (キム・ミョンジョン)



リンテック・インドネシア社

所在地:インドネシア 西ジャワ州ボゴール 従業員数:312人
 主要事業:印刷材・産業工材関連製品の製造販売

2014年5月に、事業所の構内において植樹を行いました。リンテック本社環境安全部からの参加もあり、リンテックグループ一丸となって、環境保全活動を推進する共通認識が芽生えるきっかけとなりました。今後もこの考え方を大切に、環境保全活動を継続していきます。



植樹の様子

安全・環境部
 Ketut
 (クトゥットウ)



リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社

所在地:マレーシア ペナン州ブキ・メルタジャム 従業員数:93人
 主要事業:電子・光学関連製品の製造販売

リンテック・インダストリーズ(マレーシア)社では、2014年4月にペナン島西北部の国立公園で自然体験学習会を実施しました。公園ガイドの方から動植物や自然環境の説明を受け、改めて生物多様性の重要性を認識する良い機会になりました。



国立公園での自然体験学習会

技術課
 Tan Lean Ean
 (タン・リエーン・イェン)



リンテック・インダストリーズ(サラワク)社

所在地:マレーシア サラワク州クチン 従業員数:24人
 主要事業:電子・光学関連製品の製造販売

リンテック・インダストリーズ(サラワク)社は、小規模な工場であるため細かな所まで目が届きやすく、細部まで気を配りながら環境保全活動を推進しています。今後も3R(リデュース、リユース、リサイクル)を徹底し、環境保全活動を継続していきます。



ごみの分別を徹底

財務・管理部門
 Christina Teo
 (クリスティーン・ティオ)



リンテック・シンガポール社

所在地:シンガポール サイバーハブ 従業員数:85人
 主要事業:印刷材・産業工材および電子・光学関連製品の製造販売

リンテック・シンガポール社では、国立公園庁が運営する基金「ガーデンシティーファンド」への寄附活動を行っています。2014年9月に同基金主催の植樹イベントに参加し、国立公園内に25本の植樹を行いました。イベント参加を通して、生物多様性への意識向上につながりました。



植樹イベントに参加した従業員とその家族

QA/QC部門
 Sng Seng Leng
 (スン・セン・レン)



マディコ社

所在地:アメリカ マサチューセッツ州ウーバン 従業員数:272人
 主要事業:印刷材・産業工材関連製品の製造販売

マディコ社セント・ピーターズバーグ工場ウィンドーフィルム部門では、塗工ラインの粘着剤・有機溶剤の使用量を削減するため、2014年に新しい液体投入システムを導入しました。また、塗工設備の改善も行い、粘着剤・有機溶剤の廃液量を、年間約76kℓ削減することができました。



塗工設備に特殊加工を施し、残留塗工液を割けるよう改善

セント・ピーターズ
 バーク工場技術部
 John Storms
 (ジョン・ストームズ)



※従業員数は2014年12月31日現在の人数です。

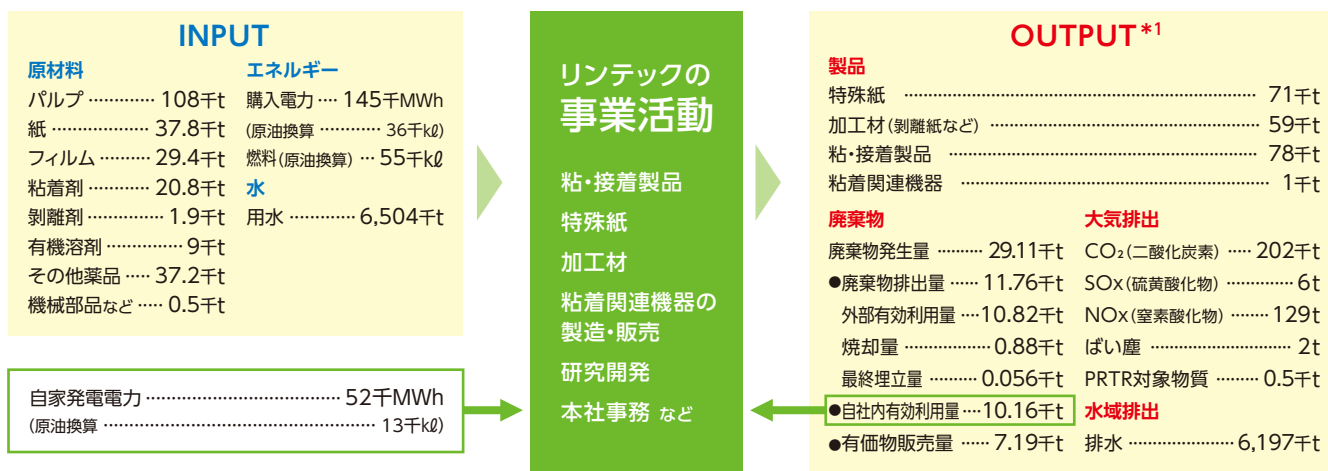
リンテックと環境の関わり

事業活動に伴う廃棄物やPRTR対象物質の排出、排水などによる環境負荷の低減を図るため、生産の効率化や製造方法の改善などに取り組んでいます。

マテリアルフロー、環境保全コストの集計の考え方

1. 集計範囲：リンテック(株)および東京リンテック加工(株)とし、そのほかの関係会社は含んでいません。
2. 集計対象期間：2014年4月1日～2015年3月31日

● マテリアルフロー



● 環境会計

リンテックでは、環境会計によって環境保全コストおよび効果の把握に努め、環境保全活動を効果的に推進しています。2014年度の投資額*2は326百万円、費用額*3は2,887百万円でした。投資額合計については、2013年度と比較して19百万円の増加となっており、温暖化防止や省エネルギー設備の導入によるものです。

費用額合計については、2013年度と比較して9百万円減少しましたが、上・下流コストの副資材の回収・再生・再利用のためのコストは増加しました。

なお、2014年度より、環境改善コストに分類していた「構内美化」を“管理活動における環境保全コスト”に分類し、新たに“社会活動コスト”を追加しました。[WEB](#)

2014年度 環境保全コスト

(単位:百万円)

分類	対象となる設備	投資額	主な取り組みの内容	費用額	
1.事業エリア内コスト	① 公害防止コスト				
	a.大気汚染防止	排ガス処理設備	35	大気汚染防止設備維持管理	479
	b.水質汚濁防止	排水処理設備	2	水質汚濁防止設備維持管理	101
	c.公害防止	-	-	PCB処理、スラッジ処理費	26
	② 地球環境保全コスト				
	a.地球温暖化防止	貫流ボイラー設備	52	燃料転換設備	154
b.省エネルギー	焼却炉ボイラー用給水加熱器	201	自家発電設備維持管理	585	
③ 資源循環コスト	a.資源の効率的な利用	損紙処理設備	27	古紙処理設備維持管理、古紙原料化	273
	b.廃棄物の減量化・削減・リサイクル	焼却炉ボイラー固形燃料化設備	10	焼却炉ボイラー設備維持管理、産業廃棄物処理	372
2.上・下流コスト	① 副資材の回収・再生・再使用	-	-	パレットの回収、副資材の引取	100
	② グリーン調達・グリーン購入	-	-	環境配慮型事務用品の購入	6
3.管理活動コスト	① 環境管理システムの構築・運用	-	-	ISO14001審査・登録、環境保全組織運営	326
	② 環境情報開示	-	-	CSRレポート・サイト作成、エコプロダクツ出展	26
	③ 環境負荷の監視・測定	-	-	規制物質の分析・測定	29
	④ 環境教育	-	-	セミナー、講習会参加	1
	⑤ 環境改善対策	-	-	構内美化、庭木剪定	28
4.研究開発コスト	-	-	環境保全に関する研究開発	363	
5.社会活動コスト	-	-	第26回全国トンボ市民サミットたつたの大会 協賛金	0	
6.環境損傷対応コスト	-	-	汚染負荷量賦課金、漁業補償	18	
合計	-	326	-	2,887	

注) 排ガス処理設備投資額には、予備品・雑工事費を含みます。

*1 OUTPUTには内販は含んでいません。

*2 投資額：対象期間における環境保全を目的とした支出額で、環境保全効果が数期にわたり持続し、その期間に費用化されていくもの。

*3 費用額：環境保全を目的とした財・サービスの費消により発生する費用または損失。

[WEB](#) 以下の情報はCSRサイトで詳細を御覧ください。
2014年度マテリアルフロー詳細、環境保全効果

第三者意見

ジャパン・フォー・サステナビリティ 多田 博之氏

非営利組織ジャパン・フォー・サステナビリティの理事長であり、法政大学客員教授、東北大学大学院環境科学研究科教授、各種官庁の委員などを歴任。



企業経営の根幹ともいえる中期経営計画：LIP-2016において、「グローバル展開」と「革新的な新製品の創出」が最重要課題であるとの認識がトップから示されています。これらに具体的にどう貢献できるかが、リンテックCSRの正念場であると、昨年の第三者意見で私は書かせていただきました。前者のグローバル展開を今後さらに積極的に図る中では、コーポレート・ガバナンスの全社的な強化が不可欠であることも、同様に指摘いたしました。

本年の報告書を読ませていただくと、トップメッセージの中で、「2014年度はガバナンス体制の整備に力を注ぎました。」とあり、具体的には、アジア圏における地域統括会社の設立、監査等委員会設置会社への移行、CSR勉強会の開催が挙げられています。さらに本文の記述で、ヘルプラインをグローバル化したこと、CSR勉強会を年間98回開催し、3,210名もの参加者があったことを知りました。

第三者意見を受けて

多田様には2012年度版より当社CSRレポートिंगに対してご助言を頂戴しております。2015年度版では、私の経営姿勢でもある社は「至誠と創造」から成る一連のCSR活動への取り組みをご理解いただき、誠にありがとうございます。CSR勉強会などの機会を通じて行われたLINTEC WAYを共有する取り組みについては、受け入れ側である従業員の姿勢が大変重要であり地道な活動を継続することで、さらに一体感を醸成していけるものと信じています。

また、マテリアリティの特定作業はスタート地点に立った段階であり、今後の活動でKPIを策定するなど、PDCAサイクルを確実に回す仕組みづくりに取り組んでいかなければならないと考えています。至誠から成る「守り」のCSRを強化

ステークホルダーの声に耳を傾けながら、この会社のDNAである「至誠」の精神が貫かれ、一步一步着実に実践されていることに、感銘を受けました。「至誠」の到達点は「信頼」にあります。こうした地道で一貫した取り組みがあればこそ、特集1に見られるような全世界の一人ひとりが、「LINTEC WAY」に対する思いを自分の言葉で語れるのだと思います。

さらに2014年度の大きな成果として、マテリアリティの特定がなされたことは、素晴らしい前進だと考えます。このことにより、従来ともすれば環境指標に比べて定量化がやや遅れていた社会性指標が体系的に整備され、社会性に関するPDCAサイクルが今後より円滑に回ることを期待しています。

「攻めのCSR」に目を転じるなら、CSRはイノベーションエンジンになり得るという確信が、この会社にはあるように感じます。だからこそ、特集2に見られるようなワークショップの開催につながっているのでしょう。今後、社外の多様なステークホルダーとも多面的に連携を深めながら、「創造」の翼をはばかせていってほしいと願います。それが「革新的な新製品の創出」につながることは言うまでもありません。

CSRの六つの基本姿勢の中には、コーポレート・ガバナンスと取引先が含まれるべきではないでしょうか。ガバナンスはESG（環境・社会・ガバナンス）の一角を占めるものであり、リンテック社の取引先は2,799社にもなっています。そのことを、最後に指摘し、提言しておきたいと思います。

していきます。

CSRを推進することは事業の円滑化にも寄与するものであり、創造から成る「攻め」のCSRに直結する活動が多くあると考えています。CSR活動をイノベーションエンジンに変えられるように、CSRワークショップなどの取り組みを積極的に進めていきます。

CSRの基本姿勢については社会情勢の変化を真摯にとらえ、その情勢に合わせた基本姿勢の策定に取り組んでいきます。

今後もCSRを基本に置いた企業活動を強化・推進することで、だれからも評価され、信頼される企業を目指してまいります。

代表取締役社長 西尾 弘之

編集後記

トップメッセージでは社は「至誠と創造」の精神でCSR活動を推進し、社会や人のために尽くしていくことについて触れています。また、特集1では、リンテックおよびグループ会社従業員の「LINTEC WAY」への思いを掲載しました。特集2は、

「2025年のあるべき姿を考える」ワークショップについて紹介しています。全従業員が一体となり、社会的な課題に応えられる企業を目指してCSR活動を継続していきます。



「リンテックグループCSRレポート2015」制作プロジェクトメンバー

本報告書の内容に関するご意見、ご質問などがございましたら、
下記までお問い合わせください。

リンテック株式会社 CSR推進室

〒173-0001 東京都板橋区本町23-23
TEL:03-5248-7711 FAX:03-5248-7760
E-mail:csr@post.lintec.co.jp

本報告書はインターネットでもご覧いただけます。
URL <http://www.lintec.co.jp/csr/>



植物インキを使用しています。

当社高級印刷用紙「ニューアージュCoC」を使用しています。

15.08.7300 1112